

岡山学院大学

(令和4年度)

実務経験のある教員による授業科目の配置を公表します。

◎実務経験のある教員による授業科目の単位数

| 学部名 | 学科名 | 実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 |
|--------|--------|-------------------------------|---------------------|----------|----|-------------|
| | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | |
| 人間生活学部 | 食物栄養学科 | 4 | 0 | 40 | 44 | 13 |

◎実務経験のある教員及び主な実務経験

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 設置基準上の必要専任教員数 |
|------|--------------|-------------|----|----|---------------|
| 竹原良記 | 高槻悦子 佐藤幸枝 | 内田雅子 平野聡 | | 5名 | 14名 |

◎実務経験のある教員による授業科目として計上した授業科目の一覧
 <全学共通科目>

| | 授業科目 | 選択 | 計 | 担当教員 |
|------------------|-------------|----|---|----------------------|
| マネジメント力 基礎科目群 | アクティブラーニングⅠ | 2 | 2 | 竹原良記 高槻悦子 内田雅子 |
| | アクティブラーニングⅡ | 2 | 2 | 平野聡 佐藤幸枝 |
| | 小計 | 4 | 4 | |

<学部等共通科目>

| | 授業科目 | 選択 | 計 | 担当教員 | |
|------|--------------|-----------|----|------|------|
| 専門分野 | 基礎栄養学 | 基礎栄養学 | 2 | 2 | 竹原良記 |
| | | 基礎栄養学実験 | 1 | 1 | 竹原良記 |
| | | 小計 | 3 | 3 | |
| | 応用栄養学 | 応用栄養学 | 2 | 2 | 竹原良記 |
| | | 栄養アセスメント | 2 | 2 | 竹原良記 |
| | | 応用栄養学実習 | 1 | 1 | 竹原良記 |
| | | 小計 | 5 | 5 | |
| | 栄養教育論 | 栄養教育論Ⅰ | 2 | 2 | 内田雅子 |
| | | 栄養教育論Ⅱ | 2 | 2 | 内田雅子 |
| | | 栄養教育管理 | 2 | 2 | 内田雅子 |
| | | 栄養教育論実習Ⅰ | 1 | 1 | 内田雅子 |
| | | 栄養教育論実習Ⅱ | 1 | 1 | 内田雅子 |
| | | 小計 | 8 | 8 | |
| | 臨床栄養学 | 臨床栄養学Ⅱ | 2 | 2 | 平野聡 |
| | | 臨床栄養学Ⅲ | 2 | 2 | 平野聡 |
| | | 臨床栄養学実習 | 1 | 1 | 平野聡 |
| | | 臨床栄養学演習 | 2 | 2 | 平野聡 |
| | | 小計 | 7 | 7 | |
| | 公衆栄養学 | 公衆栄養学Ⅰ | 2 | 2 | 高槻悦子 |
| | | 公衆栄養学Ⅱ | 2 | 2 | 高槻悦子 |
| | | 公衆栄養学実習 | 1 | 1 | 高槻悦子 |
| | | 小計 | 5 | 5 | |
| | 給食経営管理論 | 給食経営管理論Ⅰ | 2 | 2 | 佐藤幸枝 |
| | | 給食経営管理論Ⅱ | 2 | 2 | 佐藤幸枝 |
| | | 給食経営管理実習Ⅰ | 1 | 1 | 佐藤幸枝 |
| | | 給食経営管理実習Ⅱ | 1 | 1 | 佐藤幸枝 |
| | | 小計 | 6 | 6 | |
| 総合演習 | 給食経営管理実習事前事後 | 1 | 1 | 佐藤幸枝 | |
| | 小計 | 1 | 1 | | |
| 臨地実習 | 給食経営管理臨地実習Ⅰ | 1 | 1 | 佐藤幸枝 | |
| | 給食経営管理臨地実習Ⅱ | 1 | 1 | 佐藤幸枝 | |
| | 公衆栄養臨地実習 | 1 | 1 | 高槻悦子 | |
| | 臨床栄養臨地実習 | 2 | 2 | 平野聡 | |
| | 小計 | 5 | 5 | | |
| 合計 | | 40 | 40 | | |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|--|---|--|----|-----|---|------|-------------------------|
| 科目名 | 社会との接続 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 竹原 良記 高槻 悦子 内田 雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail,OH 等) : e-mail : takehara @owc.ac.jp、授業後に受け付ける | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 大学で習得した学習成果を認識し、卒業後のキャリアで自信をもって能力発揮ができる道筋を学ぶ。社会人・管理栄養士としての信念、意見および責任を果たすことができる能力を、栄養マネジメントの演習活動を通して涵養する。</p> <p>学生の学習成果： 本演習では、2年生を対象とし、栄養マネジメントの演習活動「健康寿命延伸教室」に参加することにより、次の汎用的学習成果獲得を目指す。身体計測機器および SAT の機器が全て操作できるようになる。現場に即応できる管理栄養士にとって必要な対人コミュニケーション能力、チーム管理能力、データ収集能力、理論的思考力を意識し、これらの能力習得のために活動していることを理解する。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開始から 5 回目までの授業は全員出席して測定機器の練習を行う。 2. 「健康寿命延伸教室」は、今年度中に 4 回予定されるので、学生は 4 回のいずれかの 2 回に参加する。参加する回ごとに、参加前日の授業で会場準備をして身体計測または SAT の予行演習を行い、参加当日は作業を行って、終わりに互いに参加した会のフィードバックを行い、内容を次回担当に渡す。 3. この演習を通して、対象者とのコミュニケーションができ、身体計測機器および SAT の機器を一通り操作できるようにする。 4. 最後の授業において総合討論を行い、レポートにまとめる。これは次年度の活動の参考資料となる。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 予習として「健康寿命延伸教室」において事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席すること。予習時間 90 分。 2. 復習として毎回、「健康寿命延伸教室」または自己について課題を発見し、考察した成果をまとめて、最後の授業においてレポート作成の資料とすること。復習時間 90 分。 | | | | | |
| | テキスト | 「健康寿命延伸教室」の内容を記載した冊子を配布する。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>「健康寿命延伸教室」の事前準備時および参加活動時において以下の①～④の観点から 4 段階の積み上げ式(ループリック)で、管理栄養士を目指した対人コミュニケーション能力・栄養マネジメント(身体計測・SAT)を、評価する(1 回あたり4点満点×3つの観点)。</p> <p>身体計測・SAT の観点：</p> <p>①測定技術を身につける、②会話能力を身につける、③チーム力を身につける。</p> <p>各教員は、最初の測定機器の練習、参加毎の評価、および最後のレポート評価を合計し、100 点法にて評価する。最終的に全教員の評価を平均する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催される「健康寿命延伸教室」ごとに授業を開講しているが、学生が受講しなければならない授業の開講時期は、参加する時期により異なる。予め自分の担当時期を周知して授業に参加すること。 ・ 授業に欠席をする場合は、必ず事前に担当教員に知らせておくこと。 | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1回 | <p>オリエンテーション：[全員参加] (担当：竹原、高槻、内田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」の説明、目標達成の為の行動について理解する。 ・評価方法についての説明。 <p>身体計測機器の測定理論とデータの見方の説明</p> <p>体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン測定、SAT グループ分け</p> <p>予習事項：冊子「健康寿命延伸教室」を読んで、内容を理解する。 復習事項：「健康寿命延伸教室」の趣旨を読み返し、各種測定装置の測定原理について理解する。</p> |
| 2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」の事前準備 [全員参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・身体計測機器の測定操作の習得（1） グループに分かれて測定の練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン、SAT <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。 復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p> |
| 3回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」の事前準備 [全員参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・身体計測機器の測定操作の習得（2） グループに分かれて測定の練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン、SAT <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。 復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p> |
| 4回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」の事前準備 [全員参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・身体計測機器の測定操作の習得（3） グループに分かれて測定の練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン、SAT <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。 復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p> |
| 5回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」の事前準備 [全員参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・身体計測機器の測定操作の習得（4） グループに分かれて測定の練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン、SAT <p>予習事項：機器の操作方法をよく読んで理解する。 復習事項：機器の操作の注意点・測定結果の判定を理解する。</p> |
| 6・7回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」開催前日の準備【1】[担当参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・身体計測機器の準備と測定担当の確認 各測定機器の担当決定。4年生との事前合同練習。参加者事前登録。 <p>予習事項：「健康寿命延伸教室」をよく読んで作業の流れを理解する。 復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて理解する。</p> |
| 8・9回 | <ul style="list-style-type: none"> ・「健康寿命延伸教室」に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。【1】[担当参加] (担当：竹原、高槻、内田) ・反省会を行う。 <p>予習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて確認する。 復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の問題点についてまとめておく。</p> |

| | |
|--------|---|
| 10回 | <p>前期のグループ討論とレポート作成 全員参加 (担当：竹原、高槻、内田) 総合討論、レポート提出</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命延伸教室から何を学び、何を発見したか。知識、技能等のレビュー。 今後の健康寿命延伸教室に何を学び、何を期待するかについて <p>予習事項：「健康寿命延伸教室の作業の流れの問題点・対象者の測定結果についてのレポートをまとめる。</p> <p>復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の問題解決案についてまとめておく。</p> |
| 11・12回 | <ul style="list-style-type: none"> 栄養長寿教室等に参加準備を行う。【2】 担当参加 (担当：竹原、高槻、内田) 身体計測機器の準備と測定担当の確認 <p>各測定機器の担当決定。4年生との事前合同練習。参加者事前登録。</p> <p>予習事項：「健康寿命延伸教室」をよく読んで作業の流れについて理解する。</p> <p>復習事項：「健康寿命延伸教室」の担当作業の流れについて理解する。</p> |
| 13・14回 | <ul style="list-style-type: none"> 栄養長寿教室等に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。【2】 担当参加 (担当：竹原、高槻、内田) 反省会を行う。 <p>予習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の流れについて確認する。</p> <p>復習事項：健康寿命延伸教室の担当作業の問題点についてまとめておく。</p> |
| 15回 | <p>総括のグループ討論とレポート作成 全員参加 (担当：竹原、高槻、内田) 総合討論、レポート提出</p> <ul style="list-style-type: none"> 本講座から何を学び、何を発見したか。知識、技能等のレビュー。 今後の健康寿命延伸教室に何を学び、何を期待するかについて <p>予習事項：健康寿命延伸教室の作業の流れの問題点・対象者の測定結果についてのレポートをまとめる。</p> |

令和4年度教育計画

| | | | | | | | |
|---|---|---|----|-----|---|------|---------------|
| 科目名 | アクティブラーニングⅡ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 平野 聡 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟 206 研究室 水曜日 13時から 14時 30分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、<u>実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>管理栄養士の職場において患者・高齢者への適切な栄養教育を行うためには、高度な最新の専門知識のみではなく、対象者および多職種間とのコミュニケーション能力や業務処理能力などが強く求められており、これらの汎用的学習成果を重視しなければならない。本演習は、学生が主導で「健康寿命延伸教室」を継続して運営実施し、地域高齢者との交流経験を積むことにより、専門的学習成果の涵養と汎用的学習成果の向上を図り、現場に即応する管理栄養士になることを目標とする。</p> <p><学生の学習成果></p> <p>栄養マネジメントの演習活動『健康寿命延伸教室等』を担当することにより、大学で修得した学習成果を認識し、管理栄養士として対象者およびチーム内で十分にコミュニケーションがとれ、栄養マネジメント業務や給食管理業務をスムーズに運営することができる。このことにより卒業後のキャリアで自信をもって栄養管理能力が発揮できる。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 『健康寿命延伸教室等』は、健康寿命延伸教室および地域訪問健康寿命延伸教室より成り、3年生後期から4年生前期終了まで4回開催される。この中で、学生は健康寿命延伸教室の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」を1回、同じく「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」を1回および地域訪問健康寿命延伸教室の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」を1回、参加担当する。</p> <p>2. 『健康寿命延伸教室等』の当日の参加に関しては、事前に配布される役割分担表に沿って参加する。なお、学習のフィードバックは、各演習終了時に解説を行う。</p> | | | | | |
| | 予習・復習 | <p>【予習】90分：事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席する。</p> <p>【復習】90分：健康寿命延伸教室等または自己についての課題を発見し、考察した成果をまとめて、健康寿命延伸教室等毎に行う反省会で報告する。</p> | | | | | |
| | テキスト | 健康寿命延伸教室等の内容を記載した冊子・講義資料（2年生前期に配布済み）を用いる。 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>1. 健康寿命延伸教室等の参加を行うまでに小テストを実施する。合格に至らなかった者は補習への参加をおこなう。</p> <p>2. 「健康寿命延伸教室等」に向けた事前準備および授業時に、4段階の積み上げ式(ループリック)で、評価をおこなう。(4点満点×4つの観点)。最終的に各担当での評価点を合計し、100点法にて評価する。</p> <p>◎健康寿命延伸教室等の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」の観点</p> <p>汎用的学習成果：①対象者への会話能力、②業務遂行能力</p> <p>専門的学習成果：③栄養ケア・マネジメント能力、④総合的マネジメント能力。</p> <p>◎健康寿命延伸教室の「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の観点</p> <p>汎用的学習成果：①対象者へのコミュニケーション能力、②チームでのコミュニケーション能力。</p> <p>専門的学習成果：③対象者への総合的マネジメント能力、④チームとしての総合的マネジメント能力。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者と合同での演習であるため、出席を重要視する。 ・授業に欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡する。 | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1回 | <p>健康寿命延伸教室の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」および ・「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の評価についての説明 ・役割分担の説明 ・高齢者の身体的特徴と栄養指導の要点 ・高齢者への食事提供の要点 <p style="text-align: right;">(平野・佐藤)</p> |
| 2回 | <p>高齢者を対象とした栄養指導の演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の事例検討 ・タブレットを使用した栄養指導演習 ・小テストの実施 <p style="text-align: right;">(平野)</p> |
| 3回 | <p>高齢者を対象とした給食提供の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立表の作成 ・栄養基準量の確認 <p style="text-align: right;">(佐藤)</p> |
| 4・5・6回 | <p>地域訪問健康寿命延伸教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 ○事前準備と実践(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域訪問健康寿命延伸教室の事前準備を行う。 ・当日地域訪問健康寿命延伸教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う ・反省会を行う。 <p style="text-align: right;">(平野)</p> |
| 7・8・9回 | <p>健康寿命延伸教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 ○事前準備と実践(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命延伸教室の事前に準備を行う。 ・当健康寿命延伸教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う。 ・反省会を行う。 <p style="text-align: right;">(平野)</p> |
| 10・11・12回 | <p>健康寿命延伸教室 「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」 ○事前準備と実践(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命延伸教室の事前に準備を行う。 ・健康寿命延伸教室に参加し、食事提供を行う。 ・反省会を行う。 <p style="text-align: right;">(佐藤)</p> |
| 13・14・15回 | <p>地域訪問健康寿命延伸教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 ○事前準備と実践(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域訪問健康寿命延伸教室の事前準備を行う。 ・当日地域訪問健康寿命延伸教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う ・反省会を行う。 <p style="text-align: right;">(平野)</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 基礎栄養学 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 竹原良記 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟405研究室 この授業の後と昼の休み時間 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>本授業は、<u>実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>教育目標： あなたたちが管理栄養士として活動（栄養評価や食事指導）するためには、正しい栄養学を身につけることが大切です。この授業では栄養の知識を体系的に理解し、身の回りに栄養に関連した問題があることに気付いてもらうことが目標です。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習効果： 管理栄養士として必要な栄養の基本（栄養と栄養素、エネルギーの考え方、食べ物の消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割および栄養と遺伝の関係など）を概説できる。</p> <p>汎用的学習成果： 栄養に関連した諸問題（生活習慣病や食の安全など）が現代人に身近なものであることが理解できるようになる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>テキストの章に沿って、<テーマ>を中心にいくつかポイントを選んで説明します。次ページの教育内容にはテーマ項目の一部しか掲載していませんが、他の項目を説明しないという意味ではありません。教科書の図や表は理解の基本となるものです。教科書の記述はあなたの理解を助けるでしょう。教科書の内容に加えて、関連の深い内容のハンドアウト、またはMoodle経由でファイルを配布します。</p> <p>また、あなたの理解を深めるために、教科書の各章の章末問題を課します。</p> <p>授業中に疑問に思ったことをシャトルカードに書けば、次回に答えを用意しますが、授業中には、いつでも質問を受け付けますので、疑問に思った時は、できるだけその場で質問をして、解決をするようにしてください。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | 予習・復習 | <p>ノートを作って活用してください。ホームワークはタイミングも重要です。</p> <p>予習事項： 授業の前日に授業範囲のテキストを読んでおく。予習時間：60分</p> <p>復習事項： 授業のあった日にテキストを読み返し、課題がある場合、課題を済ませ、自分のノートを完成させる。復習時間：120分</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>「イラスト基礎栄養学」田村 明他著、東京教学社</p> <p>本書は初学者が栄養学の概略を学ぶのに適していて、それ以降から卒業まで役立つ情報が書かれています。ぜひとも、書かれている内容をすべて読んで理解し、身につけて欲しいと思います。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>到達基準： 栄養素の基本的な働きや、体内での栄養素相互の関係と健康との関連性が体系的に理解できていること。</p> <p>評価基準： 上記の内容についての期末定期試験の成績（80%）と、加えて日頃からの学習意欲（各章章末問題および練習問題に解答する等）（10%）とを加えて専門的学習成果として評価します。また、授業への積極的な参加（質問をするなど）（10%）を汎用的学習成果として評価します。上記の評価を合わせて総合評価とします。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>学習する上で参考となる図書等：</p> <p>指定はしませんが、新聞や雑誌に掲載されるさまざまな栄養関連記事を読んで、ある程度理解しておくことを勧めます。</p> <p>コロナ禍等において、対面での授業ができないときは、Moodle経由で授業を行うので、教科書や配布ファイルをよく読んで受講してください。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>・オリエンテーション 講義方法、復習法、予習法、教科書、参考書について説明します。</p> <p>第1章 栄養の概念1 栄養学を学ぶにあたって踏まえておきたい基礎的事項について理解する。 予習事項：栄養とは、栄養素の種類とその働き 復習事項：栄養とは、栄養素の種類とその働き、1章末問題</p> |
| 2 回 | <p>第1章 栄養の概念2 健康と栄養素、栄養学研究の歴史について理解する。</p> <p>第2章 食物の摂取 食べ物を摂取するタイミングについて理解する。 予習事項：健康と栄養素、栄養学研究の歴史 復習事項：食べ物を摂取するタイミング、1、2章章末問題</p> |
| 3 回 | <p>1、2章章末問題</p> <p>第3章 消化・吸収と栄養素の体内動態1 消化器系の構造と働きについて理解する。 予習事項：消化器系の構造と働き 復習事項：消化器系の構造と働き</p> |
| 4 回 | <p>第3章 消化・吸収と栄養素の体内動態2 三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の消化吸収について理解する。 予習事項：三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の消化吸収 復習事項：三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の消化吸収、3章章末問題</p> |
| 5 回 | <p>3章章末問題（消化吸収）</p> <p>第4章 糖質の栄養 食事のタイミングと糖代謝を理解する。（血糖値） 予習事項：食事のタイミングと糖代謝 復習事項：食事のタイミングと糖代謝、4章章末問題</p> |
| 6 回 | <p>4章章末問題（糖質）の説明</p> <p>第5章 たんぱく質の栄養1 たんぱく質はどんな性質を持つ物質であるかを理解する。 予習事項：たんぱく質はどんな性質を持つ物質であるか 復習事項：たんぱく質はどんな性質を持つ物質であるか</p> |
| 7 回 6/3 | <p>第5章 たんぱく質の栄養2 栄養価を理解する。 予習事項：栄養価（アミノ酸価、生物価） 復習事項：栄養価、5章章末問題</p> |
| 8 回 | <p>5章章末問題（たんぱく質）の説明</p> <p>第6章 脂質の栄養 脂質の種類とはたらきを理解する。 予習事項：脂質の種類とその働き 復習事項：脂質の種類とその働き、6章章末問題</p> |
| 9 回 | <p>6章章末問題（脂質）の説明</p> <p>第7章 ビタミンの栄養 ビタミンの種類とはたらきを理解する。 予習事項：ビタミンの種類とその働き 復習事項：ビタミンの種類とその働き、7章章末問題</p> |

| | |
|---------|--|
| 10 回 | <p>7 章章末問題（ビタミン）の説明</p> <p>第8章 ミネラル（無機質）の栄養</p> <p>ミネラルの種類とはたらきについて理解する。</p> <p>予習事項：ミネラルの種類とその働き</p> <p>復習事項：ミネラルの種類とその働き、8 章章末問題</p> |
| 11 回 | <p>8 章章末問題（ミネラル）の説明</p> <p>第9章 水・電解質の栄養的意義</p> <p>水分の出納と電解質の働きを理解する。</p> <p>予習事項：水分の出納と電解質の種類とその働き</p> <p>復習事項：栄養とは、栄養素の種類とその働き、9 章章末問題</p> |
| 12 回 | <p>9 章章末問題（水・電解質）の説明</p> <p>第10章 エネルギー代謝</p> <p>エネルギー代謝を理解する。</p> <p>予習事項：エネルギー代謝</p> <p>復習事項：エネルギー代謝、10 章章末問題</p> |
| 13 回 | <p>10 章章末問題（エネルギー代謝）の説明</p> <p>☆消化と吸収の復習</p> <p>予習事項：消化と栄養素の吸収</p> <p>復習事項：消化と栄養素の吸収</p> |
| 14 回 | <p>練習問題</p> <p>☆3 大栄養素の代謝の復習</p> <p>予習事項：3 大栄養素の代謝</p> <p>復習事項：3 大栄養素の代謝</p> |
| 15 回 | <p>練習問題</p> <p>☆エネルギー代謝についての復習</p> <p>まとめ</p> <p>定期試験についての学習ポイントを説明します。</p> <p>予習事項：エネルギー代謝</p> <p>復習事項：エネルギー代謝、定期試験についての学習ポイント</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|---|---|-----------------------------|---|------|------|
| 科目名 | 基礎栄養学実験 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 竹原良記 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟405研究室 この授業の後と昼の休み時間 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>基礎栄養学において栄養に関して学んだことを基に、本実験を通して栄養の知識を深め、論理的な考え方およびその記述能力を習得すること、また基本的な実験手技およびデータの処理技術を習得することを目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : 管理栄養士に必要とされる知識 (栄養素の性質、消化、代謝に対する理解) が深まり、栄養のテーマに対して論理的に考え、記述説明する能力があがる。</p> <p>汎用的学習成果 : 基本的な実験手技およびデータ処理ができる。加えてグループワークによりコミュニケーション能力が養われる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎回、授業の終了前に、次回の実験の目的、アウトラインを説明する。授業当日は、その日の実験項目についての手技の説明をして作業確認を行った後、実験を行う。</p> <p>実験は少人数のグループに分けてローテーションまたは分担して行う。実験前にグループ内で実験内容を確認し合い、実験は間違わずに慎重に行なうこと。実験結果をノートや携帯写真などの証拠に残すこと。</p> <p>実験テーマ毎に実験レポートを、各々個人で完成させて指定日に提出してもらう。提出されたレポートは評価後に後日返却する。</p> | <p>予習・復習</p> <p>予習 : 実験の流れを確認してから授業に臨むこと。</p> | <p>テキスト</p> <p>印刷物を配布する</p> | | | |
| 学習評価の方法 | <p>到達基準 : 実験を正しく、積極的に行動できること。および実験レポートが所定の書式により書かれ、かつ専門的な知識および記述能力がついていること。</p> <p>評価方法 : ○実験態度 (よく聞く、正しく行動する、積極的に行動する) については、毎回の授業ごとに「2 : よい。1 : 悪い。0 : 欠席。」の3段階で評価する。○実験レポートについては、レポートごとに「5 : 考察まで書かれている。4 : 結果を理解している。3 : 結果まで書かれている。2 : 行った方法までは書かれている。1 : 方法が正しく書かれていない。」の5段階で評価する。なお、レポート提出期限に遅れると評価を落とす。</p> <p>成績は、実験態度の評価 (30%) とレポートの評価 (70%) を合計して、その得点率を総合評価とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 : 基礎栄養学実験 (建帛社)</p> <p>実験室内では白衣で動きやすい靴を着用すること。</p> <p>実験には準備が必要なので、予め欠席することが分かっている場合には、事前に知らせること。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>I. オリエンテーション レポートなど一般的な注意事項や、基礎的な数字の取り扱い方の説明をする。</p> <p>II. ミニ実験① 実験器具・機器の安全な取り扱いに慣れる。(溶液の定量技術の定着) 予習項目：数字の取り扱い方、実験器具・機器の安全な取り扱い 復習項目：数字の取り扱い方、実験器具・機器の安全な取り扱い</p> |
| 2 回 | <p>II. ミニ実験② データ処理の方法 (データの統計的な取り扱い)</p> <p>VI. 栄養代謝実験：動物実験の説明 (成長実験) 予習項目：データ処理の方法 復習項目：データ処理の方法</p> |
| 3 回 | <p>レポート提出 (ミニ実験)</p> <p>III. 栄養素の実験 (糖質①) 糖質のいろいろな定性実験を通して糖質の性質を理解する。(試薬の調製) 予習項目：糖質の定性実験、糖質の性質 復習項目：糖質の定性実験、糖質の性質</p> |
| 4 回 | <p>III. 栄養素の実験 (糖質②) 糖質の定性実験を行う。 (ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応) 予習項目：ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応 復習項目：ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応</p> |
| 5 回 | <p>III. 栄養素の実験 (糖質③) 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH の影響。(糖の加水分解反応) 予習項目：唾液によるでんぷん消化 復習項目：唾液によるでんぷん消化</p> |
| 6 回 | <p>III. 栄養素の実験 (糖質④) 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響。 予習項目：唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響 復習項目：唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響、レポート作成</p> |
| 7 回 | <p>糖質の実験のまとめのレポート作成・提出。</p> <p>IV. 栄養素の実験 (脂質①) 脂質の定性実験を通して脂質の性質を理解する。 (溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応) 予習項目：溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応 復習項目：溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応</p> |
| 8 回 | <p>IV. 栄養素の実験 (脂質②) 脂質についての定性実験を行う。 リパーゼによる脂肪の消化実験を行う。消化物 (抽出脂質) は次回の実験に使う。 予習項目：リパーゼによる脂肪の消化実験、脂質の抽出 復習項目：リパーゼによる脂肪の消化実験、脂質の抽出</p> |
| 9 回 | <p>IV. 栄養素の実験 (脂質③) 前回行った脂肪の消化物を薄層クロマトグラフィーにより分析する。 予習項目：脂肪消化物の薄層クロマトグラフィーによる分析 復習項目：脂肪消化物の薄層クロマトグラフィーによる分析、レポート作成</p> |

| | |
|---------|--|
| 10 回 | <p>脂質の性質：実験のまとめのレポート作成・提出。</p> <p>V. 栄養素の実験（たんぱく質①）</p> <p>たんぱく質のいろいろな定性実験を通してたんぱく質の性質を理解する。</p> <p>たんぱく質の定性反応（等電点沈殿）</p> <p>予習項目：等電点沈殿</p> <p>復習項目：等電点沈殿</p> |
| 11 回 | <p>V. 栄養素の実験（たんぱく質②）</p> <p>たんぱく質の呈色反応（ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応など）</p> <p>予習項目：ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応</p> <p>復習項目：ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応</p> |
| 12 回 | <p>V. 栄養素の実験（たんぱく質③）</p> <p>ペプシンによるたんぱく質消化に及ぼす pH の影響</p> <p>予習項目：ペプシンによるたんぱく質消化</p> <p>復習項目：ペプシンによるたんぱく質消化、レポート作成</p> |
| 13 回 | <p>たんぱく質の実験のまとめのレポート作り、提出</p> <p>VI. 栄養代謝実験①</p> <p>実験動物の栄養状態の把握、実験動物の解剖、組織重量の測定</p> <p>予習項目：実験動物の栄養状態の把握、実験動物の解剖</p> <p>復習項目：実験動物の栄養状態の把握、実験動物の解剖</p> |
| 14 回 | <p>VI. 栄養代謝実験②</p> <p>血糖、総たんぱく質の定量</p> <p>予習項目：血糖、中性脂肪、総たんぱく質の定量</p> <p>復習項目：血糖、中性脂肪、総たんぱく質の定量、レポート作成</p> |
| 15 回 | <p>栄養代謝実験のまとめのレポート作成、提出</p> <p>実験の後始末、整理、総まとめ</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|---|---|---|-----|---|------|------|
| 科目名 | 応用栄養学 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 竹原良記 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟 405 研究室 この授業の後と昼の休み時間 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u></p> <p>応用栄養学では、「基礎栄養学」で学んだ知識・理解をもとに、ライフステージ別・運動および特殊環境(ストレス、低温高温・低圧高圧環境など)の各種の環境別の栄養特性から栄養ケアの知識を身につけること、および食事摂取基準指標算定の基礎理論を理解して、ライフステージ毎に活用できるようになることを教育目標とする。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果 : ライフステージおよび運動・特殊環境下における身体的特性や栄養特性や栄養ケアのあり方について理解し、栄養指導に活用することができる。</p> <p>汎用的学習成果 : 話をよく聞く、質問に答える、課題に対応する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中はテキストの各章毎に要点を拾いだして説明する。テキストにない補足事項をハンドアウトにして配布し説明するのでまとめて学習知識を深めていく。 2. ハンドアウトの資料と対応させた授業ノートを自分で作る 3. ライフステージ別および環境別の重要な問題点(項目)を把握しやすくするために、各章終了時に、自宅学習で練習問題に解答しておく。 4. 各章の終了後の次回授業時にその章についての小テストを行う。小テストの問題に解説を行う。 5. ショトルカードを利用して学生の疑問点に対して答える。 | | | | |
| 予習・復習 | | <p>予習項目 : 授業までにテキストを読んで、1回分(または1章分)の大筋を把握しておく。 毎回の予習時間に90分。</p> <p>復習項目 : 授業のあった日にハンドアウトとテキストで内容の確認し、授業ノートを完成させる。毎回の復習時間に90分。</p> | | | | | |
| テキスト | | 「イラスト 応用栄養学」、田村 明ら著、東京教学社 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>到達基準 : 栄養分野の基本的な知識を体系的に理解でき、ライフステージ別および各種環境別の身体的特性、栄養特性と栄養ケアについて理解できていること。食事摂取基準指標算定の考え方が理解できていること。</p> <p>評価方法 : 授業への積極的な参加(自分の意見を述べる、質問に答えるなど)(10%)と日頃からの学習(練習問題に解答する等)(10%)、および期末試験の結果に80%の重みを付けて100点満点とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書 : 「日本人の食事摂取基準」第一出版 「応用栄養学実習ワークブック」第2版 みらい</p> <p>コロナ禍等において、対面での授業ができないときは、Moodle 経由で授業を行うので、教科書や配布ファイルをよく読んで受講して欲しい。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>オリエンテーション</p> <p>第3章 成長・発達・加齢</p> <p>加齢と食生活、生活リズムと食生活について概説する。</p> <p>予習項目：加齢と食生活、生活リズムと食生活</p> <p>復習項目：加齢と食生活、生活リズムと食生活、第3章練習問題</p> |
| 2 回 | <p>第3章練習問題の説明</p> <p>第4章 妊娠期・授乳期①</p> <p>妊娠、妊娠期の生理的特徴、つわり、妊娠悪阻</p> <p>予習項目：妊娠、妊娠期の生理的特徴、つわり、妊娠悪阻</p> <p>復習項目：妊娠、妊娠期の生理的特徴、つわり、妊娠悪阻</p> |
| 3 回 | <p>第4章 妊娠期・授乳期②</p> <p>妊娠悪阻、妊娠貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病とその栄養ケアのあり方について</p> <p>予習項目：妊娠悪阻、妊娠貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の栄養ケアのあり方</p> <p>復習項目：妊娠悪阻、妊娠貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の栄養ケアのあり方</p> |
| 4 回 | <p>第4章 妊娠期・授乳期③</p> <p>授乳期の生理的特徴・母乳の特徴について</p> <p>予習項目：授乳期の生理的特徴・母乳の特徴</p> <p>復習項目：授乳期の生理的特徴・母乳の特徴、第4章練習問題</p> |
| 5 回 | <p>第4章練習問題の説明</p> <p>第5章 新生児期・乳児期①</p> <p>新生児期・乳児期の特徴、乳児期の食事摂取基準について</p> <p>予習項目：新生児期・乳児期の特徴、乳児期の食事摂取基準</p> <p>復習項目：新生児期・乳児期の特徴、乳児期の食事摂取基準</p> |
| 6 回 | <p>第5章 新生児期・乳児期②</p> <p>新生児期・乳児期栄養の諸問題（母乳栄養と人工栄養、混合栄養、離乳期の栄養）</p> <p>予習項目：母乳栄養と人工栄養、混合栄養、離乳期の栄養</p> <p>復習項目：母乳栄養と人工栄養、混合栄養、離乳期の栄養、第5章練習問題</p> |
| 7 回 | <p>第5章練習問題の説明</p> <p>第6章 成長期（幼児期）①</p> <p>幼児期の身体的特徴と栄養上注意すべき点（食事摂取基準、間食、偏食、様々なこ食）</p> <p>予習項目：食事摂取基準、間食、偏食、様々なこ食</p> <p>復習項目：食事摂取基準、間食、偏食、様々なこ食</p> |
| 8 回 | <p>第6章 成長期（学童期）②</p> <p>学童期の発育、学童期の食事摂取基準、学校給食、学童期の栄養障害について</p> <p>小児の生活習慣病（肥満、メタボリックシンドローム、貧血等）の判定方法について</p> <p>予習項目：学童期の発育、食事摂取基準、学校給食、栄養障害</p> <p>復習項目：学童期の発育、食事摂取基準、学校給食、栄養障害</p> |
| 9 回 | <p>第6章 成長期（思春期）③</p> <p>思春期の成長と発育、思春期栄養の特徴、栄養異常と関連疾患、思春期の食事摂取基準</p> <p>予習項目：思春期栄養の特徴、栄養異常と関連疾患、食事摂取基準</p> <p>復習項目：思春期栄養の特徴、栄養異常と関連疾患、食事摂取基準、第6章練習問題</p> |
| 10 回 | <p>第6章練習問題の説明</p> <p>第7章 成人期</p> <p>生活習慣病、更年期の身体の変化、実年期・高齢期の疾患予防について</p> <p>予習項目：生活習慣病、更年期の身体変化、実年期・高齢期の疾患予防</p> <p>復習項目：生活習慣病、更年期の身体変化、実年期・高齢期の疾患予防、第7章練習問題</p> |

| | |
|---------|--|
| 11 回 | <p>第7章練習問題の説明</p> <p>第8章 高齢期</p> <p>生体の加齢変化、食生活の特徴と栄養管理、高齢期の疾患予防、食事摂取基準について</p> <p>予習項目：加齢変化、食生活の特徴と栄養管理、高齢期の疾患予防、食事摂取基準</p> <p>復習項目：加齢変化、食生活の特徴と栄養管理、疾患予防、食事摂取基準、第8章練習問題</p> |
| 12 回 | <p>第8章練習問題の説明</p> <p>第9章 運動・スポーツと栄養</p> <p>運動とエネルギー代謝、健康増進と運動、スポーツと体力、トレーニングと栄養補給</p> <p>予習項目：運動とエネルギー代謝、健康増進と運動、スポーツと体力、トレーニングと栄養補給</p> <p>復習項目：運動とエネルギー代謝、健康増進と運動、スポーツと体力、トレーニングと栄養補給、第9章練習問題</p> |
| 13 回 | <p>第9章練習問題の説明</p> <p>第10章 環境と栄養</p> <p>ストレスと栄養、低温・高温環境と栄養、低圧・高圧環境と栄養、無重力と栄養</p> <p>予習項目：ストレスと栄養、低温・高温環境と栄養、低圧・高圧環境と栄養、無重力と栄養</p> <p>復習項目：ストレスと栄養、低温・高温環境と栄養、低圧・高圧環境と栄養、無重力と栄養、第10章練習問題</p> |
| 14 回 | <p>第10章練習問題の説明</p> <p>ライフステージごとの食事摂取基準についてのまとめ</p> <p>予習項目：ライフステージごとの食事摂取基準</p> <p>復習項目：ライフステージごとの食事摂取基準、練習問題</p> |
| 15 回 | <p>ライフステージごとの練習問題の見直し・確認</p> <p>定期試験の内容について、学習のポイントを説明する。</p> <p>予習項目：定期試験の内容</p> <p>復習項目：定期試験の内容</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|------|------|
| 科目名 | 栄養アセスメント | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 竹原良記 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟 405 研究室 この授業の後と昼の休み時間 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>栄養アセスメントの手段として用いられる身体計測法、生化学検査法及び臨床検査法等の理論と方法、および日本人の食事摂取基準を理解する。また、これらの成績に基づいた個々人に適した栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) を行うための理論と方法についての基礎理論を習得する。</p> <p>学生の学習成果 : 本科目においては栄養状態を把握するための方法を体系的に修得できるとともに、この領域での考え方等の総合的能力を培うことを学習成果とする。そのために各種栄養アセスメントの必要性が理解でき、栄養ケア計画の作成に必要な情報の収集や栄養療法の適切性をモニターできる知識の蓄積が図れる。また、情報収集力などを含めた汎用的学習成果の向上が図れる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、2部構成のテキストを配布し中心に進める。内容は応用栄養学講義の1, 2章を掘り下げた内容の授業を行う。第一部は栄養ケア・マネジメントで、マネジメントの各ステップについて概説する。第二部は日本人の食事摂取基準 (2020年版) を読み進めながら、栄養素に設定された各種指標の根拠意味について概説する。各授業では、人体や栄養についての医学・栄養基礎知識の蓄積と栄養状況把握法の理解を求める。授業の開始時に前回授業についての小テストを行い、問題に解説を捕捉する。専門用語が多いので、講義で出てきた用語を十分理解していること。難解な用語については、授業中・またはシャトルカードなどで積極的に質問するなどして解決を図ること。</p> | <p>予習 : 前回の授業において予習内容については指示を与えるが、それ以外にもテキストの講義範囲によく目を通しておく事。毎回の授業の予習を行う (90分)。</p> <p>復習 : 講義で出てきた用語を十分理解するために、必ずノートを作ってまとめておくこと。毎回の授業の復習を行う (90分)。</p> | <p>テキスト 「日本人の食事摂取基準<2020年版>」、第一出版</p> | | | |
| 学習評価の方法 | <p>到達基準 : 身体計測、生化学検査及び臨床検査項目の理論と方法、および日本人の食事摂取基準を理解し、これらの成績に基づいた個々人に適した栄養管理 (栄養ケア・マネジメント) を行うための理論と方法についての基礎理論を習得している。</p> <p>学習評価の方法は、期末試験結果を50%と、日頃からの学習 (練習問題に解答する等) (40%) とし、汎用的学習成果に関しては授業への積極的な参加 (話をよく聞く、質問に答えるなど) (10%) として評価する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>「イラスト 応用栄養学」、田村 明ら著、東京教学社 よくわかる「栄養ケア・マネジメント」ハンドブック。西堀すき江 編、中央法規</p> <p>コロナ禍等において、対面での授業ができないときは、Moodle 経由で授業を行うので、教科書や配布ファイルをよく読んで受講して欲しい。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>授業の進め方についての説明とシラバス解説</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (1)</u></p> <p>1) マネジメントの流れ</p> <p>PDCA サイクル / 栄養状態の評価 / 栄養アセスメントの分類</p> <p>達成目標：栄養ケア・マネジメントの流れを概説できる。</p> |
| 2 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>II. 食事摂取基準 (1)</u></p> <p>指標の概要と策定方法、活用に関する基本的事項</p> <p>達成目標①様々な指標を理解する</p> |
| 3 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>II. 食事摂取基準 (2)</u></p> <p>総エネルギー必要量算定の根拠</p> <p>達成目標①必要エネルギー算定方法を理解する</p> |
| 4 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>II. 食事摂取基準 (3)</u></p> <p>エネルギー産生栄養素の必要量算定の根拠</p> <p>達成目標①エネルギー産生栄養素算定方法を理解する</p> |
| 5 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>II. 食事摂取基準 (4)</u></p> <p>ビタミン・ミネラルの必要量算定の根拠</p> <p>達成目標①ビタミン・ミネラルの算定方法を理解する。</p> |
| 6 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (2)</u></p> <p>2) 栄養状態の評価</p> <p>栄養スクリーニング：主観的栄養アセスメント、MUST, MNA, SGA</p> <p>達成目標：栄養スクリーニングを理解でき、目的や対象により適切なスクリーニング方法が選択できる。</p> |
| 7 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (3)</u></p> <p>3) 栄養アセスメント： A、B、C、D</p> <p>3-1) A. 身体計測アセスメント (Anthropometric assessment)</p> <p>身長と体重 / 体脂肪 / 骨格筋 / その他</p> <p>到達目標：身体計測の内容を理解できる。</p> |
| 8 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (4)</u></p> <p>3-2) B. 臨床検査の方法 (血液生化学検査、生理機能検査、画像検査)</p> <p>血液検査 (たんぱく質、糖質、脂質)</p> <p>到達目標：血液検査の評価を理解できる。</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (5)</u></p> <p>3-2) B. 臨床検査の方法 (血液生化学検査、生理機能検査、画像検査)</p> <p>血液検査 (電解質、貧血、腎機能、肝機能、感染・炎症、免疫)</p> <p>臨床検査まとめ その2</p> <p>到達目標: 血液検査の評価を理解できる。</p> |
| 10 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (6)</u></p> <p>3-2) B. 臨床検査の方法 (血液生化学検査、生理機能検査、画像検査)</p> <p>尿検査 (窒素出納、尿中クレアチニン、3-メチルヒスチジン)</p> <p>生理検査 (血圧)</p> <p>到達目標: 血液検査の評価を理解できる。</p> |
| 11 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (7)</u></p> <p>3-3) C. 臨床診査</p> <p>3-4) D. 栄養・食事調査</p> <p>到達目標: 食事調査の評価を理解できる。</p> |
| 12 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (8)</u></p> <p>3-5) 高齢者総合的機能評価 (<u>Comprehensive geriatric assessment</u>)</p> <p>日常生活活動度 / 手段的日常生活活動度 / 認知機能 / 気分・幸福度 / コミュニケーション能力 / 社会的環境</p> <p>3-6) 意識レベルの評価:</p> <p>到達目標: 高齢者総合的機能評価を理解できる。</p> |
| 13 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>I. 栄養ケア・マネジメント (9)</u></p> <p>4) 栄養ケアプログラム</p> <p>目標設定 / 計画・実施 / 栄養支援(栄養ケア)の内容</p> <p>/ 記録: 理論的な問題志向型記録システム (POS) の問題志向型診療録 (POMR)</p> <p>5) 評価</p> <p>内容: 企画評価、経過評価、影響評価、結果評価、経済評価、総合評価</p> <p>到達目標: 栄養ケアプログラムとさまざまな評価法を理解できる。</p> |
| 14 回 | <p>前回授業の練習問題および説明</p> <p><u>III. 栄養管理プロセス</u></p> <p>(1) 栄養ケア・マネジメントと栄養管理プロセスの違い</p> <p>(2) 栄養管理プロセスの過程</p> <p>栄養スクリーニング / 栄養評価 / 栄養診断 / 栄養介入 / 栄養モニタリングと評価 / 記録方法</p> <p>到達目標: 栄養管理プロセスを理解できる。</p> |
| 15 回 | <p><u>栄養ケア・マネジメントの進め方および食事摂取基準のまとめ</u></p> <p><u>講義のまとめ (期末試験について)</u></p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|---|-----|---|------|------|
| 科目名 | 応用栄養学実習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 竹原良記 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A棟405研究室 月曜日1, 2限 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>教育目標： 管理栄養士として栄養管理ができるようになるために、栄養状態判定の指標（身体計測、生化学検査、食事摂取量調査など）を調査し、それらを分析して評価する技術が必要である。そのためこの実習では、①計測値や検査値の意味を理解し、初歩的な統計処理技術を習得すること、②ライフステージ毎の栄養ケアが計画できること、③対象者と対面で食事調査をして分析し、食事摂取基準に即した評価が出来ることを目標とする。これにより管理栄養士に必要な知識、技能、態度および考え方の総合的能力が養われる。</p> <p>学生の学習成果： 専門的学習成果：計測値や検体検査値（尿検査値）や食事調査の結果などからを栄養アセスメントができる。 汎用的学習成果：初歩的な統計数値処理ができる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>毎授業の最初に簡単に実習内容を説明する。次の段階で、実習のテーマに沿ってデータ収集・処理・レポート作成を行い、レポートを提出して授業を終了する。 データ集計・処理はパソコンの表集計ソフト「Excel」、および栄養ソフト「栄養君」を用いて行う。 所定の様式を予めファイルまたは印刷物で示すので、授業時にこれらに記入してレポートとして提出すること。レポートを指定授業回までに提出することは重要である。点検したレポートは後日に返却する。必要に応じてレポートの再提出を求めることがある。</p> | | | | |
| | | 予習・復習 | <p>本実習では提出物が多い。レポートの様式は予め講義録に示すので、締め切り直前に慌てるよりは、自習でできる部分があれば、授業開始前に予め様式に書き込んでおくと授業中の作業がはかどる。</p> | | | | |
| テキスト | | <p>「応用栄養学実習ワークブック」山本由喜子 編、みらい</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>到達基準：計測値や検体検査値（尿検査値）や食事調査の結果などからを栄養アセスメントができる。</p> <p>専門的成果として、①栄養状態を示す数値の意味を理解し、栄養状態を判定できる、②ライフステージやさまざまな環境の栄養管理の方法が理解できる について、レポートの内容より評価する(60%)。</p> <p>汎用的成果として、①パソコンを使った簡単な計算技術や統計処理技術を習得している、②態度（挨拶、言葉使い、積極性など）について評価する(40%)。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等：「日本人の食事摂取基準」第一出版；「簡単！食品カロリー早わかり BOOK」吉田美香著 主婦の友社；「マンガでわかるナースの統計学」オーム社；「エクセル栄養君」吉村幸男著 建帛社；食品成分表</p> <p>この授業受講の準備として上記のような簡単な統計学の入門書を読んでおくことを進める。またエクセルの操作に熟知していると作業がはやい。授業には、積極的に参加する姿勢が重要である。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>・授業の進め方の説明</p> <p>大学生の食事マネジメント1（24時間思い出し法による食事調査）</p> <p>目的：大学生の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 テキスト第1章および第8章を参考に大学生の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 一般的な成人の1日の献立を基にその栄養分析をして評価する。 食事調査法の24時間思い出し法について理解する。</p> |
| 2 回 | <p>予習：前日に1日分の食事を携帯カメラで保存する。</p> <p>大学生の食事マネジメント2（24時間思い出し法による食事調査）</p> <p>クラスメートに対して、24時間思い出し法により食事調査を行う。 復習：食調査結果をまとめておく。</p> |
| 3 回 | <p>大学生の食事マネジメント3（24時間思い出し法による食事調査）</p> <p>24時間思い出し法による食事調査結果から栄養計算を行い、栄養状態を評価する。 まとめ、レポート提出</p> |
| 4 回 | <p>ライフステージの食事マネジメント1</p> <p>目的：高齢者の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 身近な高齢者をイメージして、テキスト第9章を参考に高齢者の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。</p> <p>食事調査</p> <p>【ホームワーク】身近な高齢者に対して、24時間思い出し法で食事調査を行う。 復習：高齢者の栄養ケアのあり方を理解する。</p> |
| 5 回 | <p>ライフステージの食事マネジメント2</p> <p>ホームワークまとめ ホームワークの食事調査結果から栄養計算を行って栄養状態を評価する。</p> |
| 6 回 | <p>ライフステージの食事マネジメント3</p> <p>前回に行なった栄養状態評価から改善献立を作成する。 まとめ、レポート提出</p> |
| 7 回 | <p>栄養アセスメント（身体計測1）</p> <p>目的：栄養アセスメントの方法論について理解し、統計的解析手法を学ぶ。 身体計測データを統計処理する。（身長、上腕両翼長、体重） 復習：エクセルで基本統計を計算する。</p> |
| 8 回 | <p>栄養アセスメント（身体計測2）</p> <p>各自で身体計測データを測定して評価が出来る。 （上腕三頭筋皮下脂肪厚、肩甲骨下部皮下脂肪厚、上腕周囲長、腹部脂肪厚、骨密度） 復習：エクセルの関数を使ってt検定の計算をする。</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>栄養アセスメント（身体計測3）</p> <p>まとめ、レポート提出 復習：エクセルの関数を使ってχ^2検定の計算をする。</p> |
| 10 回 | <p>栄養アセスメント（生化学検査1）</p> <p>目的：生化学的検査値（24時間尿結果）および食事調査から、栄養関連指標を計算して検査値の意味を理解し、食事調査結果と合わせて栄養状態を評価する。</p> <p>生化学検査の標準値の意味について学ぶ。 生化学検査例を評価できる。</p> <p>尿検査（24時間採尿方法および随時尿検査）の説明、畜尿ボトルの作成 【ホームワーク】：3日分の自己食事調査と生活活動調査、および最終日に24時間尿の採尿を行なう。採尿後、一括して24時間尿検査を外注。</p> <p>復習：検査値の意味について理解する。</p> |
| 11 回 | <p>栄養アセスメント（生化学検査2）</p> <p>随時尿検査：授業開始時に自分の随時尿検査を行ない、評価する。 （尿糖、尿タンパク質その他）</p> <p>ホームワークで行なった自分の自己食事記録調査と生活活動調査を集計する。 （栄養分析、身体活動レベルの算定）</p> <p>【ホームワーク予備日】：前回の尿提出が出来なかった者は、24時間尿の採尿を行なう。採尿後、一括して24時間尿検査を検査センターに外注。</p> <p>復習：随時尿検査の結果を解釈する。短時間に栄養分析が出来る。</p> |
| 12 回 | <p>栄養アセスメント（生化学検査3）</p> <p>外注から戻ってきた検査結果をもとに自分の24時間尿について評価をする。</p> <p>随時尿検査予備日 前日に引き続き栄養分析、身体活動レベルの算定を行なう。</p> <p>復習：身体活動レベルの計算方法を理解する。24時間尿の解釈についてまとめる。</p> |
| 13 回 | <p>栄養アセスメント（生化学検査4）</p> <p>生化学的検査値、食事調査結果と合わせて栄養状態を評価する。 （身体活動レベル、窒素出納、クレアチニン身長係数、ミネラルバランスなど）</p> <p>レポート提出 復習：栄養状態を判断するのに必要な検査項目についてまとめる。</p> |
| 14 回 | <p>ライフステージ別の食事マネジメント1</p> <p>目的：ライフステージ別の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 テキストを参考に妊娠期の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える</p> <p>復習：妊婦の栄養ケアのあり方を理解する。</p> |
| 15 回 | <p>ライフステージ別の食事マネジメント2</p> <p>一般的な成人の1日の献立を基にその栄養分析をして評価する。</p> <p>レポート提出</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|------|------|
| 科目名 | 栄養教育論 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 内田雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 在室時はいつでも受け付けます | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 個々人の健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価・判定に基づいて栄養教育プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントする能力を養う。そのために必要な健康・栄養教育に関する理論と方法について基礎的な知識を修得する。 また、その知識を応用し、ライフステージ毎の特徴の理解、適した栄養教育方法の選択ができるようになる。</p> <p>学生の学習成果 : 専門的学習成果 : ①栄養教育の目的と意義を説明できる。②管理栄養士としての倫理と態度を理解できる。③栄養教育マネジメントについて理解し、実践できる。④ライフステージの特徴を理解できる。 汎用的学習成果 : 管理栄養士としての倫理観の獲得。栄養教育マネジメントを組み立てる中</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。 ・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。 ・授業開始時に定期的に「小テスト」を行う。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。 | <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通し予習プリントを埋めておく ・復習 : 予習プリント、授業で学んだ用語、教科書の内容をまとめてノートに整理。 <p>学習時間の目安 : 予習・復習各90分</p> | <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店 ・栄養教育・指導実習ワークブック/みらい | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 栄養教育の目的、目標を理解する。 ② 栄養教育マネジメントの流れを理解する。 ③ 栄養マネジメントに用いる理論を理解する。 ④ ライフステージ毎の特徴と健康・栄養課題を理解する。 ⑤ ライフステージに適した、アセスメント法、学習形態、教材を選択することができる。 <p>学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80点、小テスト 20点。テストの結果解説は授業内に行う。 授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点を行わない。 なお、態度 (社会人としてのマナー・学習態度など) についての評価は全授業を通して行う。指導に従わず改善されない場合、評価点より減ずる</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 授乳・離乳の支援ガイド 日本人の食事摂取基準 | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1回 | <p>栄養学総論（1）</p> <p>■学習目標 栄養教育の定義を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト1～7ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育論の内容、進め方、評価方法について説明 ・栄養教育の定義と役割 <p>■予習・復習事項 復習 テキストの該当箇所、ノートを見ながら本時の内容を整理する</p> |
| 2回 | <p>栄養学総論（2）</p> <p>■学習目標 栄養教育と健康教育、ヘルスプロモーション、食育の関係が説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト7～12ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育、ヘルスプロモーション、食育 ・生態学的モデル <p>■予習・復習事項 教科書の確認とノートの整理</p> |
| 3回 | <p>栄養教育マネジメント（1）</p> <p>■学習目標 PDCA サイクルと各段階の内容を理解する。情報収集、アセスメント法が説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト16・17ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養マネジメントサイクルについて ・アセスメントと情報収集の方法 <p>■予習・復習事項 アセスメント方法について整理する</p> |
| 4回 | <p>栄養教育マネジメント（2）</p> <p>■学習目標 目標の種類と設定方法を理解する。評価を考えた具体的な目標が設定できる。</p> <p>■講義内容 テキスト17～21ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先課題の見つけ方 ・目標の種類について <p>■予習・復習事項 目標の種類を整理をする。</p> |
| 5回 | <p>栄養教育マネジメント（3）</p> <p>■学習目標 計画書の作成方法を理解する。プログラムや対象者のライフステージにあわせた学習形態と教材を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト18～20ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書の種類と作成方法 ・対象者に応じた学習形態・学習媒体 ・小テスト（範囲1～4回） <p>■予習・復習事項 学習形態、媒体の具体例を探し、自分が覚えやすいようにまとめる。</p> |

| | |
|-----|---|
| 6回 | <p>栄養教育マネジメント（4）</p> <p>■学習目標 評価の種類と方法を理解する。適切な評価を行い、プログラムの見直し改善を行うことができる。</p> <p>■講義内容 テキスト21・22ページ ・評価の種類と方法について</p> <p>■予習・復習事項 評価の種類を整理する</p> |
| 7回 | <p>栄養教育マネジメント（5）</p> <p>■学習目標 評価のデザインを理解し、適切な評価計画ができる。</p> <p>■講義内容 ・評価のデザインについて ・バイアスと妥当性について</p> <p>■予習・復習事項 評価計画の手順をまとめる</p> |
| 8回 | <p>栄養教育マネジメント（6）</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントで用いる理論とモデルを理解する。</p> <p>■講義内容 テキスト13～15 ・プリシード・プロシードモデル ・ソーシャルマーケティング ・小テスト2（範囲5回～8回）</p> <p>■予習・復習事項 理論とモデルをノートに整理し、項目を覚える</p> |
| 9回 | <p>妊娠期・授乳期の栄養教育</p> <p>■学習目標 妊娠期・授乳期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあつたアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト56・57ページ ・妊婦・授乳婦の食生活指針について ・母乳育児について</p> <p>■予習・復習事項 妊娠期・授乳期の栄養教育に必要な情報をまとめる</p> |
| 10回 | <p>乳児期の栄養教育</p> <p>■学習目標 乳時期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあつたアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト58・59ページ ・授乳・離乳の支援について</p> <p>■予習・復習事項 乳時期の特徴と栄養、健康課題を整理する</p> |
| 11回 | <p>幼児期の栄養教育</p> <p>■学習目標 幼児期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあつたアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト60・61ページ ・幼稚園・保育園での食育推進を参考に幼児期の栄養教育について学ぶ</p> <p>■予習・復習事項 幼児期の特徴、栄養課題を整理する</p> |

| | |
|-------|---|
| 1 2 回 | <p>学童期の栄養教育</p> <p>■学習目標 学童期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト6 2～6 5 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における食育の推進を参考に学童期の栄養教育について学ぶ <p>■予習・復習事項 学童期の特徴、栄養課題を整理する</p> |
| 1 3 回 | <p>思春期・青年期の栄養教育・特別支援学校での栄養教育</p> <p>■学習目標 思春期・青年期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト6 6～6 9 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生、大学生を対象にした栄養教育の方法について ・特別支援学校での栄養教育について ・小テスト3（範囲9回~12回） <p>■予習・復習事項 思春期・青年期の特徴、栄養課題を整理する</p> |
| 1 4 回 | <p>成人期の栄養教育</p> <p>■学習目標 成人期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト7 0・7 1 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドローム予防 ・ワークライフバランス <p>■予習・復習事項 成人期の特徴、栄養課題を整理する</p> |
| 1 5 回 | <p>高齢期の栄養教育</p> <p>■学習目標 高齢期の特徴と栄養、健康課題を理解する。対象者にあったアセスメント内容や教材、学習形態を選択できる。</p> <p>■講義内容 テキスト7 2・7 3 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル ・ロコモティブシンドローム ・介護予防 ・小テスト4（範囲13回~15回） <p>■予習・復習事項 高齢期の特徴、栄養課題を整理する</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 栄養教育論Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 内田雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 在室時はいつでも受け付けます | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><u>教育目標</u> : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 栄養教育で用いる行動科学の各理論とモデルの特徴及び、行動変容の技法について理解できる。また、栄養カウンセリングの目的、基本的技法を身に付け、行動変容理論等を使い、対象者の食行動変容支援に応用することができる。</p> <p>集団、組織、地域に関わる理論や概念を理解し、対象集団の食行動の変容に応用できる。</p> <p><u>学生の学習成果</u> : ①行動科学の理論とモデルを説明できる。②集団、組織、地域づくりに関する理論、概念を説明できる。③栄養カウンセリングの基本技法を実践できる。</p> <p><u>汎用的学習成果</u> : 対象者に応じた栄養教育を実施するため、論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション力をつける。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。 ・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。 ・授業開始時に定期的に「小テスト」を行う。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通し予習プリントを埋める。 ・復習 : 今後の学習の基礎となる教科です。授業で学んだ用語はノートに整理し、今後も使えるようにしておく。 <p>学習時間の目安 : 予習・復習各 90 分</p> | | | | | |
| | テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①行動変容の理論とモデルの理解 ②栄養カウンセリングの基本的技法、カウンセリング手法の理解。 ③集団、組織、地域づくりにかかわる理論、概念の理解</p> <p>学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書 ・栄養教育・指導実習ワークブック/みらい</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1回 | <p>行動科学の理論とモデル（1）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト25・26ページ ・栄養教育論Ⅱの内容、進め方、評価方法について説明 ・刺激反応理論</p> <p>■予習・復習事項 刺激反応理論の仕組みをノートにまとめる</p> |
| 2回 | <p>行動科学の理論とモデル（2）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト27～29ページ ・社会的認知理論</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 3回 | <p>行動科学の理論とモデル（3）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト30～32 ・ヘルスビリーフモデル ・計画的行動理論</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 4回 | <p>行動科学の理論とモデル（4）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト33～35ページ ・トランスセオレティカルモデル</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 5回 | <p>行動科学の理論とモデル（5）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト36・37ページ ・ソーシャルサポート ・ストレスマネジメント</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |

| | |
|-----|---|
| 6回 | <p>行動科学の理論とモデル（6）</p> <p>■学習目標 行動科学の栄養教育への活用、意義を説明できる。行動科学の各理論とモデルの特徴を説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト37・38・52ページ ・コミュニケーション理論 ・ヘルスリテラシー ・イノベーション普及理論</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 7回 | <p>栄養カウンセリング（1）</p> <p>■学習目標 栄養カウンセリングの目的と管理栄養士としての倫理と態度を理解できる。</p> <p>■講義内容 テキスト40・41ページ ・小テスト1（範囲1回～6回） ・栄養カウンセリングとは ・ラポールの形成とコミュニケーション</p> <p>■予習・復習事項 小テストに向けての学習。テストの正誤を整理する。</p> |
| 8回 | <p>栄養カウンセリング（2）</p> <p>■学習目標 カウンセリングの基本、カウンセリング技法を理解することができる。</p> <p>■講義内容 テキスト42ページ ・カウンセリングの基本技法 ・5ASモデル</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 9回 | <p>栄養カウンセリング（3）</p> <p>■学習目標 主なカウンセリング手法を理解し、説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト42・43 ・認知行動療法</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 10回 | <p>栄養カウンセリングの実際（4）</p> <p>■学習目標 主なカウンセリング手法を理解し、説明できる。</p> <p>■講義内容 テキスト44・45 ・動機づけ面接</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 11回 | <p>栄養カウンセリング（5）</p> <p>■学習目標 各種行動変容理論から派生する行動変容技法を理解し、対象者支援に応用できる</p> <p>■講義内容 テキスト48ページ ・行動変容技法</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |

| | |
|------|---|
| 1 2回 | <p>栄養カウンセリング（6）</p> <p>■学習目標 栄養カウンセリングの基本技法、行動変容科学を理解した上で、実際のカウンセリングの流れを説明することができる。</p> <p>■講義内容 ・栄養カウンセリングの実際（事例を用いて） ・小テスト2（範囲7回~11回）</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 1 3回 | <p>食環境整備と栄養教育</p> <p>■学習目標 食環境整備が食行動の変容に必要であることを理解する。個人の食行動に影響を及ぼす環境要因を説明することができる。</p> <p>■講義内容 テキスト10・11・49・50 ・食物へのアクセスと情報へのアクセス ・生態学的モデル</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 1 4回 | <p>組織づくりと栄養教育</p> <p>■学習目標 集団・組織・地域にかかわる理論と概念について理解できる</p> <p>■講義内容 テキスト51・52ページ ・ソーシャルキャピタル ・エンパワメント ・コミュニティーオーガニゼーション ・グループダイナミクス</p> <p>■予習・復習事項 授業で用いたプリント、例題を自分のノートにまとめる</p> |
| 1 5回 | <p>まとめ</p> <p>■学習目標 行動変容の理論やモデルを理解し、栄養教育に応用できる。</p> <p>■講義内容 ・小テスト3（範囲12回~14回） ・栄養教育論Ⅱのまとめ</p> <p>■予習・復習事項 定期テストに向けて学習内容を確認する。</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 栄養教育管理 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 内田雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 在室時はいつでも受け付けます | | | | | | | |
| 教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果 | <p><u>教育目標</u> : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>栄養教育論及び栄養教育論実習で習得した健康・栄養教育に関する理論と方法、行動科学やカウンセリング理論と技術等を活用して、適正な栄養教育を行う能力を養う。</p> <p>健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報を収集、分析して、それらを総合的に評価、判定する能力及び対象に応じた栄養プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントする能力を養う。</p> <p><u>学生の学習成果</u> :</p> <p>専門的学習成果 : ①カウンセリング理論の習得。②理論を使ったカウンセリングができる。③対象者の情報を整理、評価・判定し、対象者の特徴を考慮した栄養教育が展開できる。</p> <p>汎用的学習成果 : 対象者の特徴を捉え健康・栄養改善行動の支援に必要な問題解決力、論理的思考、倫理観を獲得する。</p> | | | | | | |
| | 教育 方 法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、講義を中心にテキスト、プリントなどを利用して進める。 ・授業中に疑問点があれば、積極的に質問を行うように求める。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。 | | | | | |
| | 予 習 ・ 復 習 | <ul style="list-style-type: none"> ・予習 : 「授業回数別教育内容」にある講義範囲に目を通しておく。 ・復習 : 授業で学んだ用語はノートに整理し、今後も使えるようにしておく。 <p>学習時間の目安 : 各 90 分</p> | | | | | |
| テ キ ス ト | <ul style="list-style-type: none"> ・visual 栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店 ・栄養教育・栄養指導論 実習演習 みらい | | | | | | |
| 学 習 評 価 の 方 法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①栄養教育に必要な行動科学理論の理解を深め、実践できる。</p> <p>②ライフステージの特徴に応じた栄養教育が計画できる。</p> <p>③栄養教育時の栄養士の態度、マナーを身に着ける。</p> <p>④行動変容に繋がるカウンセリングやコミュニケーションを理解する。</p> <p>学習評価は、定期試験および受講態度の結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。課題、テストの結果・説明は授業内で行う。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点を行わない。</p> | | | | | | |
| 注 意 事 項 | 参考テキスト | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>栄養教育管理</p> <p>■学習目標 1, 2 年で学んだ内容を説明できる。</p> <p>■講義内容 ・栄養教育管理の内容、進め方、評価方法について説明 ・栄養教育論 I・II の振り返り</p> |
| 2 回 | <p>栄養教育の実践 妊娠・授乳期の特徴と栄養教育</p> <p>■学習目標 妊娠・授乳期の特徴と課題を理解し、栄養教育内容を計画できる。</p> <p>■講義内容 ・妊娠期、授乳期の特徴 ・妊婦に対する栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 妊娠期の栄養、母乳の役割を整理する</p> |
| 3 回 | <p>栄養教育の実践 乳幼児期の発達と栄養教育（1）</p> <p>■学習目標 離乳食の進め方を説明できる。カウンセリング技法を活用して栄養相談ができる。</p> <p>■講義内容 ・授乳・離乳のすすめかた ・育児が初めての母親に対する栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 離乳食の進め方を覚える</p> |
| 4 回 | <p>栄養教育の実践 乳幼児期の発達と栄養教育（2）</p> <p>■学習目標 保育の場における栄養教育が理解できる。幼児期の課題が説明できる。</p> <p>■講義内容 ・保育の場での食育 ・幼児健診での栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 保育所保育指針を確認する</p> |
| 5 回 | <p>栄養教育の実践 学童期・思春期の発達と栄養教育</p> <p>■学習目標 学童期・思春期の特性を知り、食生活の問題点をとらえ栄養教育が計画できる。</p> <p>■講義内容 ・小テスト 1（範囲 2 回～5 回） ・学童期の栄養評価 ・望ましいボディイメージ</p> <p>■予習・復習事項 学童期・思春期の特徴を確認しておく。</p> |
| 6 回 | <p>栄養教育の実践 成人期の特徴と栄養教育</p> <p>■学習目標 特定健診、特定保健指導を理解し、栄養教育を計画できる。</p> <p>■講義内容 ・特定保健指導について ・メタボリックシンドロームについて</p> <p>■予習・復習事項 特定保健指導の階層化を見直しておく</p> |

| | |
|-----|---|
| 7回 | <p>栄養教育の実践 高齢期の特徴と栄養教育</p> <p>■学習目標 高齢期の特徴と課題を理解し、栄養教育が必要な判断ができる。</p> <p>■講義内容 ・低栄養予防 ・多職種連携</p> <p>■予習・復習事項 高齢期の特徴を整理しておく</p> |
| 8回 | <p>栄養教育の実践 食環境整備</p> <p>■学習目標 食環境整備が食行動の変容に必要であることを理解する</p> <p>■講義内容 ・社員食堂を使った栄養教育</p> <p>■予習・復習事項 身近な食環境整備について調べる</p> |
| 9回 | <p>栄養教育の実践 地域づくり</p> <p>■学習目標 地域レベルの行動変容の進め方を理解できる</p> <p>■講義内容 ・地域レベルの行動変容理論 ・地域づくりの実際</p> <p>■予習・復習 集団を対象にした行動理論を確認しておく</p> |
| 10回 | <p>性格タイプ別栄養カウンセリング</p> <p>■学習目標 性格タイプを見極め、栄養カウンセリングを実施できる。</p> <p>■講義内容 ・性格タイプと支援方法 ・小テスト2（範囲6回～9回）</p> <p>■予習・復習事項 小テストの範囲の見直し、テスト後は正誤確認をする。</p> |
| 11回 | <p>電話やメールによる支援、訪問指導</p> <p>■学習目標 電話や電子メール（非対面）による支援の注意点を学び、実践できる。</p> <p>■講義内容 ・電話、メールでの基本的態度 ・電話、メールでの支援：特定保健指導での栄養指導（演習）</p> <p>■予習・復習事項 非対面での栄養教育の注意点をまとめる</p> |
| 12回 | <p>臨床現場での栄養教育</p> <p>■学習目標 入院・退院時の栄養カウンセリングの目的の違いを理解する</p> <p>■講義内容 ・臨床現場における栄養カウンセリングの特徴 ・質問、説明の仕方</p> <p>■予習・復習事項 栄養カウンセリング技法を確認しておく</p> |

| | |
|-----|---|
| 13回 | <p>栄養教育マネジメント</p> <p>■学習目標 栄養教育計画に適切な目標と評価指標を設定することができる。</p> <p>■講義内容 ・目標設定と評価</p> <p>■予習・復習事項 栄養教育マネジメントの流れを調べておく</p> |
| 14回 | <p>人を動かす栄養カウンセリング</p> <p>■学習目標 対象者の行動変容を促すカウンセリングの方法が理解できる</p> <p>■講義内容 ・動機づけ面接 ・特定保健指導初回面接</p> <p>■予習・復習事項 動機づけ面接について調べ、授業で学んだこととあわせ整理する</p> |
| 15回 | <p>人を動かすヘルスコミュニケーション</p> <p>■学習目標 対象者の興味を引き、行動変容に繋げる伝え方が理解できる。</p> <p>■講義内容 ・人を動かすコツ ・伝え方のアイデア ・小テスト3（11回~15回）</p> <p>■予習・復習事項 テストに向けて復習する</p> |

令和4年度教育計画

| | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 栄養教育論実習 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 内田雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 在室時はいつでも受け付けます | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>栄養教育論 I で学んだ対象者の健康・栄養状態，食行動、食環境等の評価・判定に基づく栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする基礎技術を修得する。また、栄養マネジメントに必要な情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。栄養教育を実践することで、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を体得する。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果：栄養教育論 I で得た専門的学習成果である栄養教育マネジメントに対する理解を、実習を通して深めることで、対象の課題抽出、具体的な目標設定、対象者に適した学習方法選択、評価・見直しの基礎を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果：対象集団の情報を分析する論理的思考力、そこから課題を見つけ解決策を導き出す問題解決力、また班で共同作業するなかでチームワーク力を身に着ける。</p> | | | | | | |
| | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は実習形式で行う。実習を数回ごとにセクション分けし、各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い、各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは、その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。 | | | | | |
| 方法 | 予習・復習 | <p>栄養教育計画、実施に必要な理論の確認、疾病等に関する知識について前期に修得した内容を予習し、授業後は実習内容を復習確認する。</p> | | | | | |
| | テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育・指導実習ワークブック／みらい ・ヴィジュアル栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店 | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①栄養アセスメント方法を理解し、実践できる。</p> <p>②対象者に応じた栄養教育計画を作成できる。</p> <p>③対象者に応じた媒体を作成し、作成した媒体を用いて栄養教育が実施できる。</p> <p>④栄養教育実施後の評価、改善が適正にできる。</p> <p>課題提出 50点 (アセスメント、集団教育指導案)</p> <p>発表 20点</p> <p>グループ作業30点 (参加状況、チームワーク、リーダーシップ等)</p> <p>課題の内容評価等については授業内で行う</p> <p>なお、課題の提出遅れは-5点で計算する。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>栄養教育論実習</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントの流れを理解できる。コミュニケーションスキルが向上する。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育論実習で何を学ぶのか、進め方、評価方法について ・栄養教育マネジメントの流れについて ・自己紹介 |
| 2 回 | <p>栄養教育マネジメント ～アセスメント1～</p> <p>■学習目標 栄養教育マネジメントの流れを理解できる。食事調査法を理解できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事調査法について ・活動量の計算方法 <p>■予習・復習事項 食事調査法について教科書を読み、それぞれの特徴を確認する。</p> |
| 3 回 | <p>栄養教育マネジメント ～アセスメント2～</p> <p>■学習目標 判定量食物摂取頻度調査を理解できる。対象者から食事状況を聞き取ることができる</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FFQによる栄養調査 <p>■予習・復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FFQの実施方法を調べる。 |
| 4 回 | <p>栄養教育マネジメント～アセスメント3～</p> <p>■学習目標 アセスメント結果をもとに、対象者の課題を見つけ、改善策を考えることができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントデータの評価 ・日本人の食事摂取基準 <p>■予習・復習事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先課題の設定～目標設定の流れを確認しておく <p>評価：レポート提出</p> |
| 5 回 | <p>学習形態・学習媒体 1</p> <p>■学習目標 集団を対象とした栄養教育の方法と技術及び効果的な学習媒体作成方法を習得する。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・k j 法、6－6 討議法 ・教材、媒体の種類と特徴 <p>■予習・復習項目 学習形態と媒体について教科書を読んでおく</p> |
| 6 回 | <p>学習形態・学習媒体 2</p> <p>■学習目標 対象者が理解しやすい媒体を作成することができる。</p> <p>■実習内容 理解しやすい媒体とは 身近なものから学べる媒体作成</p> <p>■予習・復習項目 食品パッケージを集める。表示の見方を調べる</p> |

| | |
|---------|--|
| 7 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（1）</p> <p>■学習目標 対象のライフステージの健康課題を理解できる</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の現状・課題を調べる ・対象集団の問題点の明確化 <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの課題を整理する |
| 8 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（2）</p> <p>■学習目標 対象集団の優先課題を見つけ、目標設定ができる。栄養教育の計画書を作成することができる</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の状況を整理 ・優先課題、目標設定の方法 <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先課題の見分け方、目標の種類を確認する。 |
| 9 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（3） シナリオ、媒体作成</p> <p>■学習目標 指導案の作成方法を理解できる。手順に基づいて指導案を作成できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導に必要な媒体の作成計画をつくる ・シナリオを作成する <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を読み返し、指導に必要な知識、情報を整理する。 |
| 10 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（4） 指導案、シナリオ、媒体作成、発表練習</p> <p>■学習目標 作成した媒体を利用して、栄養教育ができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ、媒体を完成させる ・発表練習 <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表練習 |
| 11 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（5） 中間発表</p> <p>■学習目標 指導案に基づいた栄養教育ができる。評価結果を次の計画に活用できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画した栄養教育の発表（前半） ・発表内容を評価し、改善点を見つけ修正する <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表練習 |
| 12 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（6） 中間発表</p> <p>■学習目標 指導案に基づいた栄養教育ができる。 指導案の導入・展開・まとめの役割を理解し、実践できる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画した栄養教育の発表（後半） ・指導案に導入とまとめを追加する <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表練習 |

| | |
|---------|---|
| 13 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（7）</p> <p>■学習目標 P D C A サイクルを意識した栄養教育計画ができる</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・媒体・シナリオの改善 ・発表練習 <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に基づいた改善策を考えておく |
| 14 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（8） 最終発表</p> <p>■学習目標 改善後の指導案に基づいた栄養教育ができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善した栄養教育の発表（前半） <p>■予習・復習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習 |
| 15 回 | <p>集団栄養教育の企画と実践（9） 最終発表</p> <p>■学習目標 改善後の指導案に基づいた栄養教育ができる。</p> <p>■実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善した栄養教育の発表（後半） ・評価の実施、改善案の作成 <p>評価：レポート提出</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|---|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 栄養教育論実習Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 内田雅子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 在室時はいつでも受け付けます | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><u>教育目標</u> : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>対象者の健康・栄養状態, 食行動等に関する情報の収集・分析, それらを総合的に評価・判定する能力を養う。対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる技術を修得し, 食行動変容のための行動科学を踏まえた栄養カウンセリング能力, コミュニケーション能力を体得する。</p> <p><u>学生の学習成果</u> :</p> <p>専門的学習成果 : 栄養教育論Ⅰ・Ⅱ, 栄養教育論実習Ⅰで得た専門的学習成果を実習で理解を深めることで, 健康・栄養教育の基礎を獲得する。</p> <p>汎用的学習成果 : 対象者の情報を分析する論理的思考力, そこから課題を見つけ解決策を導き出す問題解決力, コミュニケーション力, また班で共同作業するなかでチームワーク力を身に着ける</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は実習形式で行う。実習を数回ごとにセクション分けし, 各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い, 各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは, その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。 | | | | | |
| 予習・復習 | <p>栄養教育に必要な技術、知識について今まで修得した学習内容を予習しておく。実習後は、授業内容について復習確認する。</p> | | | | | | |
| テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育・指導実習ワークブック／みらい ・ヴィジュアル栄養学テキスト 栄養教育論/中山書店 | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。</p> <p>個人を対象とした栄養教育を実施できる。特に、対象者が種々の状態・病態のケース、行動変容ステージを理解し、コミュニケーションをとり、栄養教育を計画できること。</p> <p>学習評価は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 50点 アンケート 事例整理シート、栄養カウンセリング計画 ・実技 30点 カウンセリング技法、ロールプレイ ・参加状況 取り組み姿勢、チームワーク、リーダーシップ 20点 で行う。 <p>課題内容、評価については授業内で行う。</p> <p>なお、課題の提出遅れは-5点で計算する。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>栄養情報の収集とアセスメント（1）</p> <p>■学習目標 対象のアセスメント情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できるようになる。</p> <p>■講義・実習内容 ・栄養教育論実習Ⅱの内容、進め方、評価方法について ・アンケート調査票の設計</p> <p>課題：アンケート提出</p> |
| 2 回 | <p>栄養情報の収集とアセスメント（2）</p> <p>■学習目標 対象のアセスメント情報を収集するための質問紙調査法を習得し、調査データを集計できるようになる。</p> <p>■講義・実習内容 ・アンケート調査データの集計</p> <p>課題：集計結果</p> |
| 3 回 | <p>カウンセリング技法の実践 聴き方の基本姿勢</p> <p>■学習目標 対象者が言いたいことを自由に言えるとともに、気づきを促す質問を行うことができる</p> <p>■講義・実習内容 ・DVD 視聴 ・実践 傾聴、要約、受容（unit 1-6-1）</p> |
| 4 回 | <p>面接法（インタビュー）</p> <p>■学習目標 対象者に気づきを促し、目標行動を設定できる質問方法を習得する。</p> <p>■講義・実習内容 ・開かれた質問 ・技法を取り入れた会話</p> <p>課題：実技テスト（カウンセリング技法）</p> |
| 5 回 | <p>コミュニケーションスキルを磨く</p> <p>■学習目標 対象者やメンバーを良好な意思疎通を図り、信頼関係を築く会話ができる</p> <p>■講義・実習内容 ・人の話を聞く力 ・会話を楽しむ</p> |
| 6 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 1</p> <p>■学習目標 カウンセリング技法を用いて対象者の問題行動を聞き出すことができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・面接計画 ・事例を用いたロールプレイ（カウンセリングの教科書）</p> |
| 7 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 2</p> <p>■学習目標 対象者の準備性に応じた食生活のアドバイスができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・行動変容段階の把握 ・課題抽出、優先順位決定、行動目標の設定（unit1-7-3）</p> |

| | |
|---------|---|
| 8 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 3</p> <p>■学習目標 対象者の背景を整理し、準備性に応じたカウンセリング計画を立てることができる。</p> <p>■講義・実習内容 カウンセリング技法と行動変容技法をもちいたカウンセリングシナリオの作成</p> |
| 9 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 4</p> <p>■学習目標 ロールプレイの実施や観察を通じて、カウンセリング技法が向上する</p> <p>■講義・実習内容 ・作成したシナリオでロールプレイの実施 ・全体討議を行い、内容を改善する。</p> |
| 10 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 5</p> <p>■学習目標 ロールプレイの実施や観察を通じて、カウンセリング技法が向上する</p> <p>■講義・実習内容 ・シナリオの修正、ロールプレイの練習</p> |
| 11 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 6</p> <p>■学習目標 ロールプレイの実施や観察を通じて、カウンセリング技法が向上する</p> <p>■講義・実習内容 ・修正したシナリオでロールプレイ、全体討議の実施 ・実技試験 カウンセリング</p> |
| 12 回 | <p>準備性に応じた栄養カウンセリング 7</p> <p>■学習目標 栄養カウンセリング実施後の評価、改善をすることができる。</p> <p>■講義・実習内容 ・評価 ・栄養カウンセリングのまとめ ・レポート作成 面接計画～評価まで</p> |
| 13 回 | <p>グループカウンセリング 1</p> <p>■学習目標 グループダイナミクスを利用した支援方法を理解する。</p> <p>■講義・実習内容 ・グループダイナミクスの育て方 ・アイスブレイクの実践</p> |
| 14 回 | <p>グループカウンセリング 2</p> <p>■学習目標 対象者の行動変容ステージを判断できる。グループカウンセリングができる</p> <p>■講義・実習内容 ・事例を用いてグループカウンセリングを行う ・全体で有効なカウンセリング内容を検討する ・準備性に応じた栄養カウンセリング計画の作成（課題）</p> |
| 15 回 | <p>食環境づくりにおける栄養教育</p> <p>■学習目標 ヘルスプロモーションの推進に必要な食環境づくりについて理解できる</p> <p>■講義・実習内容 ・フードマイレージ ・フードファシズム</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|--|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 臨床栄養学Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 平野 聡 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 206 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>臨床栄養学Ⅱは、臨床栄養学Ⅰで学んだ基礎知識に加えて、それぞれの症状または原因に対応した治療と食事療法の考え方をより専門的に追究する。また、本講は、診療報酬・介護報酬、栄養補給法、栄養評価指標及び疾患別の栄養管理計画のプランニングなど栄養ケア・プロセスを実践的に理解することを目的とする。</p> <p><学生の学習成果></p> <p>専門的学習成果は、チーム医療、在宅医療、診療報酬・介護報酬、栄養ケア・プロセスの概要、栄養補給法（経口栄養、経腸栄養、静脈栄養）、栄養評価指標を総合的に理解する。また、疾患別の栄養管理計画のプランニングができる実践的能力を獲得していることとする。</p> <p>汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力（自己管理能力、論理的思考力、問題解決力）を付けていることとする。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>1. 授業は、テキスト、サブテキスト（配布資料）に沿って進める。</p> <p>2. 授業開始時に前回習った内容の「小テスト」の解説を行う。</p> <p>3. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。</p> <p>4. 上記の質問、感想に対し、コメントを次回の授業で説明する。</p> <p>5. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。</p> <p>なお、学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | 授業の進め方 | <p>【予習】90分：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習をレポートにて提出する。</p> <p>【復習】90分：毎授業後に「授業回数別教育内容」に記された復習をレポートにて提出する。</p> <p>また、「授業回数別教育内容」の確認用、小テストを自宅課題にて実施する。</p> | | | | | |
| | テキスト | 佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第9版」医歯薬出版 | | | | | |
| 注意事項 | <p>学習成果は、以下の獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <p>①疾患ごとの病態および食事療法を理解している。</p> <p>②病態別の栄養管理計画の作成に必要な知識を理解している。</p> <p>③病態別の栄養指導計画の作成に必要な知識を理解している。</p> <p>④傷病者及び高齢者を対象に栄養ケア・プロセスを行う総合的知識を獲得している。</p> <p>○汎用的学習成果は、予習・復習の課題レポート（7回目、14回目に提出を予定する授業時のレポートとテスト）が提出・理解できている。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果（定期試験80点）の内訳は①：30点、②：20点、③：20点、④：30点、汎用的学習成果（授業時のレポートとテスト：20点）を総合して行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>初回、授業時に配付するサブテキストを必ず持参してください。</p> <p>基礎栄養学・生化学・解剖生理学の復習をしてください。</p> <p>オンラインでの授業の場合は、課題を提出したことにより出席となります。</p> <p>教科書が同じ版数でも、ページ番号が違うことがあるので留意してください。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学Ⅱの授業内容を説明する。 <p>摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 2 回 | <p>老年症候群及び褥瘡の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 3 回 | <p>動脈硬化性疾患の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 4 回 | <p>虚血性心疾患及びうっ血性心不全の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 5 回 | <p>クローン病、潰瘍性大腸炎、短腸症候群の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 6 回 | <p>慢性閉塞性肺疾患（COPD）の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 7 回 | <p>経静脈栄養の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経静脈栄養法の目的・適応 ・末梢静脈栄養法と中心静脈栄養法の違い ・経静脈栄養法の合併症（リフィーディング症候群）・バクテリアルトランスロケーション ・小テストの実施とレポート提出 |

| | |
|---------|---|
| 8 回 | <p>脂肪肝の栄養ケア・プロセス</p> <p>過栄養に伴う脂肪肝、アルコール性脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD） 非アルコール性脂肪肝炎（NASH）、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 9 回 | <p>肝臓硬変非代償期の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 10 回 | <p>慢性腎臓病（CKD）の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 11 回 | <p>透析の栄養ケア・プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 12 回 | <p>術前・術後の栄養ケア・プロセス（胃全摘術）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 13 回 | <p>血液疾患における栄養ケア・プロセス（鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |
| 14 回 | <p>内分泌疾患の栄養ケア・マネジメン（甲状腺機能亢進症・低下症）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・小テストの実施とレポート提出 |
| 15 回 | <p>妊娠期の栄養ケア・プロセス（先天性代謝異常症）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|---|--|--|-----|---|------|------|
| 科目名 | 臨床栄養学Ⅲ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 平野 聡 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 206 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>臨床栄養学Ⅲは、栄養の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食べ物と薬剤の相互作用及び医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解する。さらに、ライフステージ別、疾患別及び様々な身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・プロセスの実践が出来る知識を身につける。</p> <p>すなわち、管理栄養士国家試験国家試験における臨床栄養学分野の理解を目的とする。</p> <p><学生の学習成果></p> <p>専門的学習成果は、臨床栄養学分野における管理栄養士国家試験の問題を解くことができる。</p> <p>汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力（自己管理能力、論理的思考力、問題解決力）を付けていることとする。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は、テキスト、配付資料に沿って進める。 2. 授業開始時に実施した「テスト」の解説を行う。 3. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。 4. 上記の質問、感想に対し、コメントを次回の授業で説明する。 5. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。 <p>なお、学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> | | | | |
| 予習・復習 | | <p>【予習】90分：毎授業前に提示されたテキストを読んでおく。</p> <p>【復習】90分：毎授業後に小テストを自宅課題にて実施する。</p> | | | | | |
| テキスト | | <p>佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第9版」医歯薬出版</p> <p>秀和システム いちばんやさしい管理栄養士国家試験合格講座[第3版]</p> <p>医歯薬出版編 日本食品成分表 2022 八訂 栄養計算ソフト・電子版付</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>学習成果は、以下の獲得度合いを量的に評価する。</p> <p>○専門的学習成果は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「臨床栄養学の概念」を理解している。 ② 「傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント」を理解している。 ③ 「疾患・病態別栄養ケア・マネジメント」を理解している。 <p>なお、これらは管理栄養士国家試験の出題基準に準ずる。</p> <p>○汎用的学習成果は、予習・復習の課題が計画的におこなっている。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果（定期試験 60 点）の内訳は①：20 点、②：20 点、③：20 点</p> <p>汎用的学習成果（授業時の小テスト 40 点）を総合して行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点をおこなう。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>初回、授業時に配付するサブテキストを毎授業時に必ず持参してください。</p> <p>基礎栄養学・生化学・解剖生理学の復習をしてください。</p> <p>オンラインでの授業の場合は、課題を提出したことにより出席となります。</p> <p>教科書が同じ版数でも、ページ番号が違うことがあるので留意してください。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学Ⅲの授業内容を説明する。 ・管理栄養士国家試験に関して、解説する。 |
| 2 回 | <p>管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じたテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在までの学習状況を確認する目的であり、当該科目の成績評価には含まない。 |
| 3 回 | <p>大項目 1.臨床栄養学の概念</p> <p>A 意義と目的</p> <p>B 医療・介護報酬の基本</p> <p>C 医療と臨床栄養</p> |
| 4 回 | <p>大項目 2.傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント</p> <p>A 栄養アセスメントの意義と方法</p> <p>B 栄養ケアの目標設定と計画作成</p> <p>C 栄養・食事療法と栄養補給法</p> |
| 5 回 | <p>大項目 2.傷病者・要介護者の栄養ケア・マネジメント</p> <p>D 傷病者、要支援者・要介護者の栄養教育</p> <p>E モニタリングと再評価</p> <p>F 薬と栄養・食事の相互作用</p> <p>G 栄養ケアの記録</p> |
| 6 回 | <p>大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>A 栄養障害の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>B 肥満と代謝疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>C 消化器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>D 循環器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> |
| 7 回 | <p>管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範囲：3回目から6回目までの学習 |
| 8 回 | <p>大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>E 腎・尿路疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>F 内分泌疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>G 神経疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>H 摂食障害の栄養アセスメントと栄養ケア</p> |
| 9 回 | <p>大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>I 呼吸器疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>J 血液系の疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>K 筋・骨格疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> <p>L 免疫・アレルギー疾患の栄養アセスメントと栄養ケア</p> |

| | |
|---------|--|
| 10 回 | 大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント M感染症の栄養アセスメントと栄養ケア Nがんの栄養アセスメントと栄養ケア O手術・周術期患者の栄養アセスメントと栄養ケア Pクリティカルケアの栄養アセスメントと栄養ケア |
| 11 回 | 管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む） ・範囲：8回目から10回目までの学習 |
| 12 回 | 大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント Q摂食機能障害の栄養アセスメントと栄養ケア R身体・知的障害の栄養アセスメントと栄養ケア S乳幼児・小児疾患の栄養アセスメントと栄養ケア |
| 13 回 | 大項目 3.疾患・病態別栄養ケア・マネジメント T妊産婦・授乳婦疾患の栄養アセスメントと栄養ケア U老年症候群の栄養アセスメントと栄養ケア |
| 14 回 | 管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む） ・範囲：12回目から13回目までの学習 |
| 15 回 | 管理栄養士国家試験の臨床栄養学分野に準じた小テストと解説（成績評価に含む） ・範囲：3回目から14回目までの学習 |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|---|--|----|-----|---|------|------|
| 科目名 | 臨床栄養学実習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 平野 聡 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 206 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うためには、基本的な技法を身に付ける必要がある。本実習では、栄養状態を評価・判定するために必要な身体計測・生化学検査・臨床診査・食事摂取調査の意義を理解し、実践する。また、チーム医療の重要性を理解し、他の職種や患者様との対話を円滑に進める方法を身に付けることを目的とする。</p> <p><学生の学習成果> 専門的学習成果は、身体計測の測定方法と評価方法、栄養スクリーニングの実施と評価、食事摂取調査の実施と評価、疾患に応じた食事内容の立案、集団栄養指導の実施をおこなうことができる能力を獲得する。汎用的学習成果は、チーム医療をおこなうためのチームワークや社会人としての自己管理能力、倫理観を獲得する。</p> | | | | | | |
| | 教育 | <p>(講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実習 ・ 実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、実習前にプリントを配布して実習の進め方と注意点を説明する。 2. 少人数のグループに別れて、授業回数別教育内容に沿って実習を行う。 3. 各グループの全員が正確に実技・実演できるように指導する。 4. 授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。 5. 上記の質問、感想に対し、コメントを次回の授業で説明する。 6. 「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。 <p>なお、学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> | | | | | |
| 方法 | 予習・復習 | <p>【予習】30分：授業回数別教育内容で取り扱う疾患を事前に教科書を読んでおく。 【復習】30分：授業時に提示された課題を期日までに提出できるよう準備する。 なお、授業時間内に出た課題が時間内にできない場合は、自宅課題として取り組む。</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>・日本糖尿病学会編 「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」文光堂 ・佐藤和人編著 エッセンシャル「臨床栄養学 第9版」医歯薬出版</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>以下に示す学習成果について、その獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果については、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身体計測の測定と栄養評価ができること。 ②食事摂取調査と栄養評価ができること。 ③治療食の食事計画の作成ができること。 ④機器・器具の扱いが正しくできること。 ⑤集団栄養指導の実習ができること。 <p>○汎用的学習成果については、コミュニケーション能力（チームワーク）や社会人としての倫理観・自己管理能力が獲得できること。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果（実習の技術：60点）、汎用的学習成果（実習中の提出物：20点、グループ学習での対話・意欲・態度：20点）の結果を総合して行う。</p> <p>なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、適宜減点をおこなう。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 集団栄養指導実習の際には、図書館で糖尿病関連の書籍を借りてください。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>授業の進め方についての説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学実習について概説し、授業計画を説明する。 ・病院での管理栄養士の役割と業務に関する映像を用いて説明する。 |
| 2 回 | <p>食事摂取調査のうち、食事記録法と24時間思い出し法についての実習①</p> <p>① 食事記録法は、患者様役が事前に3日間の食事内容を記録し、持参する。</p> <p>② 24時間思い出し法は管理栄養士役が問診し、記録する。 (持参物：白衣)</p> |
| 3 回 | <p>食事摂取調査のうち、食事記録法と24時間思い出し法についての実習②</p> <p>2回目の授業内容で得た調査結果から栄養価計算を行い、エネルギー産生栄養素バランスを評価・判定する。 (持参物：白衣)</p> |
| 4 回 | <p>糖尿病交換表の使用方法についての実習①</p> <p>在宅での糖尿病患者様を想定し、7日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者用の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） (課題：3日間の食事計画と1日分の食事を試作し提出する。) (持参物：USB)</p> |
| 5 回 | <p>糖尿病交換表の使用方法についての実習②</p> <p>在宅での糖尿病患者様を想定し、7日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者様の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） (持参物：USB)</p> |
| 6 回 | <p>糖尿病交換表の使用方法についての実習③</p> <p>在宅での糖尿病患者様を想定し、7日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者様の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） (4回目に提示した課題の締め切り) (持参物：USB)</p> |
| 7 回 | <p>栄養スクリーニングの実習①</p> <p>① ベッドサイドでの主観的包括的評価（SGA）の方法説明</p> <p>② 簡易栄養状態評価表（MNA）の方法説明と実践 (患者役、管理栄養士役、見学者に分かれて実践する。) (持参物：白衣 備考：身だしなみを整えて来てください。)</p> |
| 8 回 | <p>栄養スクリーニングの実習②</p> <p>実技テスト：簡易栄養状態評価表（MNA）の実践 (持参物：白衣 備考：身だしなみを整えて来てください。)</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>身体計測の実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体計測の意義の説明 ・立位での身体計測の実施 <p>身長計・体重計・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・下腿周囲・体脂肪・握力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持たれている方の身体計測における評価方法 四肢欠損を考慮しての計算 <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p> |
| 10 回 | <p>身体計測の実習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横臥位での身体計測の実施 <p>身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法 <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p> |
| 11 回 | <p>身体計測の実習③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テストの実施 ・横臥位での身体計測の実施 <p>身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法 <p>(持参物：白衣、電卓 備考：袖が捲れる服装)</p> |
| 12 回 | <p>食事摂取方法についての実習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体模型を使って経腸栄養法の説明 ・経鼻経管栄養法と経腸栄養法の構造を説明 ・ベッド上での食事介助の実習 <p>体位・・・ベッド上でのセミファーラ位（15～30度挙げた状態）</p> <p>食事・・・プリン、ゼリー状の水</p> <p>器具・・・小スプーン</p> <p>(持参必須：白衣、プリン、手が拭ける程度のサイズのタオル)</p> |
| 13 回 | <p>糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の栄養管理についての解説 ・糖尿病の症例を用いた栄養ケア・マネジメントの実践 <p>(持参物：USB)</p> |
| 14 回 | <p>糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病教室の準備 ・糖尿病教室の指導案の作成 ・糖尿病教室のパワーポイントの作成 <p>(持参物：USB)</p> |
| 15 回 | <p>糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テストの実施 ・糖尿病教室の発表 <p>グループごとに発表する。</p> <p>(持参物：白衣・USB)</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|---|---|---|--|---|------|------|
| 科目名 | 臨床栄養学演習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 平野 聡 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 206 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、栄養状態の評価判定・栄養管理計画書又は栄養ケア計画書の作成・栄養補給法の選択・ベッドサイドでの栄養指導等が臨床の場で実施できる管理栄養士として総合的能力を身に付けることを目的とする。</p> <p><学生の学習成果></p> <p>専門的学習成果は、疾患別に栄養状態の評価ができ、その内容をよく理解し、それに基づく、栄養管理計画書又は栄養ケア計画書を作成する能力が獲得できていることとする。また、それに基づいた栄養指導を行えることとする。</p> <p>汎用的学習成果は、管理栄養士としての自覚をもって積極的に任務に取り組むことができていることとする。その中でもチームワーク、パートナーシップ、対話能力として論理的思考力・自己管理能力が獲得することとする。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実習 ・ 実技)</p> <p>1. 各種疾患の症例に基づく栄養ケア・プロセスについて演習をする。</p> <p>①栄養スクリーニングの実施 ②疾患ごとの栄養評価の実施 ③栄養管理計画又は栄養ケア計画書の作成 ④疾患によって栄養指導案の作成及び栄養指導の演習を行う。</p> <p>⑤演習の過程では、個別のアドバイスを適宜行う。</p> <p>2. SOAP 形式による経過記録の作成をする。</p> <p>3. 授業終了時「シャトルカード」に質問、感想の記入を求め、内容によっては次回の授業で説明する。なお、学習のフィードバックは、課題の返却時に解説を行う。</p> | <p>予習・復習</p> <p>【予習】90分：授業回数別教育内容で取り扱う疾患を事前に教科書を読んでおく。</p> <p>【復習】90分：授業時に提示された課題を期日までに提出できるよう準備する。</p> <p>なお、授業時間内に出た課題が時間内にできない場合は、自宅課題として取り組む。</p> | <p>テキスト</p> <p>佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第9版」医歯薬出版</p> | | | |
| 学習評価の方法 | <p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <p>○専門的学習成果</p> <p>①症例患者に適した栄養管理計画書の作成ができ、その内容が理解できる能力・技術を獲得していること。</p> <p>②症例患者にカウンセリングを取り入れた栄養指導ができる技術を獲得していること。</p> <p>③栄養指導後の SOAP による栄養指導記録の作成ができていること。</p> <p>○汎用的学習成果</p> <p>管理栄養士としての自覚をもって積極的に任務に取り組むことができていること。チームワーク、パートナーシップ、対話能力の能力として自己表現力・他者理解力が取れていること。</p> <p>○学習評価は、専門的学習成果として、①栄養評価：50点、②栄養管理計画書の作成：20点、SOAP 式での記録作成：10点とする。汎用的学習成果③チームワーク・論理的思考力、自己管理能力20点を総合して行う。なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点を行う。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等</p> <p>基礎栄養学・生化学・解剖生理学の教科書を読み、これまでの授業を復習してください。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>授業の進め方について</p> <p>臨床栄養学演習について概説し、授業計画を説明する。</p> <p>医療現場で使用する書類の説明をする。</p> <p>臨床栄養学で用いる用語の説明をする。</p> |
| 2 回 | <p>糖尿病の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 3 回 | <p>糖尿病の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 4 回 | <p>脂質異常症の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 5 回 | <p>脂質異常症の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 6 回 | <p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・プロセスに関するテスト <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p> |
| 7 回 | <p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・プロセスに関するテストの解説 <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p> |
| 8 回 | <p>代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導の演習 <p>【持参物：白衣】</p> |

| | |
|---------|--|
| 9 回 | <p>肝硬変の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 10 回 | <p>肝硬変の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 11 回 | <p>腎臓病の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 12 回 | <p>腎臓病の栄養ケア・プロセスについて症例を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成 |
| 13 回 | <p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・プロセスに関するテスト <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p> |
| 14 回 | <p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・プロセスに関するテストの解説 <p>【持参物：保存可能な記録媒体（USB等）】</p> |
| 15 回 | <p>消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導の演習 <p>【持参物：白衣】</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 公衆栄養学 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 高槻 悦子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟研究室において授業時間以外に受け付ける | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す 学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果—地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスのマネジメント能力、に関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得</p> <p>汎用的学習成果—栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。 各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。個々へのフィードバックとしてはシャトルカードへの返信により対応するが、全体への理解度の向上のためには次回の授業に解説・補足を行う。 各単元の終了後の「小テスト」を実施、返却後、理解不足の箇所については、補足解説を行い、確実に知識が修得できるようフィードバックする。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <p>食生活に関わる報道記事などは常に興味を持っておくこと。 予習事項 : 次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読み、興味のある箇所や授業で理解すべき点に下線を引いておくこと。 復習事項 : キーワードを中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。 キーワード集を作成し、後日掲示した解答例により確認すること。小テスト後提出を求める 予習復習時間は 180 分程度とする。</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>カレント 公衆栄養学 由田克士・押野榮司 編著 建帛社 定価 2,600 円 (税別) 日本人の食事摂取基準 (2020年版) 第一出版 定価 2,700 円 (税別)</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①公衆栄養の概念を理解している ②健康・栄養問題の現状と課題を理解している ③栄養施策を理解している <p>学習評価は、定期試験成績(70%)および単元ごとの小テスト(30%)によって行う。授業態度は、減点法により成績判定に加える。授業態度については授業の最初に説明する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について 第1章 公衆栄養の概念 ①公衆栄養の概念 本時の目標：公衆栄養は国民や地域住民といった集団を対象とし、多様な集団の健康・栄養問題を効果的に解決する方策について学ぶものであることを理解する 予習事項：テキスト1-1 (P1-5) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 2 回 | <p>第1章 公衆栄養の概念 ②公衆栄養活動 本時の目標：公衆栄養活動は生態系、健康・医療・福祉・介護などの広い分野で行われていることを理解し、広範囲の視点から市町村、都道府県や国または世界の栄養問題を展望できる技量を養う 予習事項：テキスト1-2 (P5-14) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 3 回 | <p>第2章 健康・栄養問題の現状と課題 ①食事の変化 本時の目標：公衆栄養活動の検討・立案・評価のそれぞれの場面に必要な我が国における栄養摂取状況や食品群別摂取量の経年的変化を学ぶ 予習事項：テキスト2-1 (P15-21) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 4 回 | <p>第2章 健康・栄養問題の現状と課題 ②食生活の変化 本時の目標：我が国における栄養問題の要因としての食事・食生活の現状と経年的変化を明確化する 予習事項：テキスト2-2 (P21-30) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 5 回 | <p>第2章 健康・栄養問題の現状と課題 食生活の変化（国民健康栄養調査から） 本時の目標：厚生労働省から毎年発表されている「国民健康栄養調査の概要」について調べ、我が国における栄養問題の要因としての食事・食生活の現状と経年的変化についてまとめる 予習事項：直近の「国民健康栄養調査の概要」をインターネットにより調べておく。 復習事項：食事・食生活の現状と経年的変化をレポートにまとめる</p> |

| | |
|---------|---|
| 6 回 | <p>第2章 健康・栄養問題の現状と課題</p> <p>③食環境の変化</p> <p>本時の目標：我が国における栄養問題の要因としての食事・食生活の現状と経年的変化と食環境の変化との関連について説明できる</p> <p>予習事項：テキスト2-3 (P31-35) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 7 回 | <p>第2章 健康・栄養問題の現状と課題</p> <p>④諸外国の健康・栄養問題の現状と課題</p> <p>本時の目標：諸外国における健康・栄養問題の現状と課題を整理し、理解する</p> <p>予習事項：テキスト2-4 (P36-41) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 8 回 | <p>第3章 栄養施策</p> <p>⑦諸外国の健康・栄養施策</p> <p>本時の目標：国際的な健康・栄養問題と開発途上国に対する国連の施策、先進国の施策について理解を深める</p> <p>予習事項：テキスト3-7 (P80-86) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 9 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>①我が国の公衆栄養活動</p> <p>②公衆栄養関連法規</p> <p>本時の目標：健康づくり施策と公衆栄養活動の役割について説明できる。</p> <p>予習事項：テキスト3-1 (P43-46) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 10 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>②公衆栄養関連法規</p> <p>本時の目標：公衆栄養関連法規と制定の経緯・意義について説明できる</p> <p>予習事項：テキスト3-2 (P46-51) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 11 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>③管理栄養士・栄養士制度と職業倫理</p> <p>本時の目標：管理栄養士・栄養士の身分法である栄養士法を学ぶとともに、社会的な役割、制度の沿革ならびに養成制度について理解する</p> <p>予習事項：テキスト3-3 (P51-53) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |

| | |
|---------|--|
| 12 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>④国民健康・栄養調査</p> <p>本時の目標：国民健康・栄養調査の目的や内容・方法を学び、これらの結果が反映される国や地方自治体の関連施策について理解する</p> <p>予習事項：テキスト3-4 (P54-58) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 13 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>⑤実施に関する指針、ツール</p> <p>本時の目標：健康づくり施策・公衆栄養活動を実施するにあたり、行政における管理栄養士の特徴的な業務について理解する</p> <p>予習事項：テキスト3-5 (P58-67) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 14 回 | <p>第3章 栄養政策</p> <p>⑥国の健康増進の基本方針と地方計画</p> <p>本時の目標：健康づくり施策の歴史的変遷を踏まえ、「健康日本 21」「食育基本計画」を中心に現行の健康づくり施策の目的、対象、概要について理解する</p> <p>予習事項：テキスト3-6 (P68-80) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる)</p> |
| 15 回 | <p>第3章 栄養施策</p> <p>倉敷市の健康増進計画・食育推進計画と公衆栄養活動</p> <p>本時の目標：倉敷市の公衆栄養活動としての「食育栄養まつり」の実施について調査し、スタッフとして参加するための準備を計画する</p> <p>予習事項：「倉敷市食育栄養まつり」について調べる</p> <p>復習事項：自分たちがスタッフとして参加するための資料を作成する</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|--------|---|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 公衆栄養学Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 高槻 悦子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟研究室において授業時間以外に受け付ける | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す 学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果—地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得</p> <p>汎用的学習成果—栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義)・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。 各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。個々へのフィードバックとしてはシャトルカードへの返信により対応するが、全体への理解度の向上のためには次回の授業に解説・補足を行う。 各単元の終了後の「小テスト」を実施、返却後、理解不足の箇所については、補足解説を行い、確実に知識が修得できるようフィードバックさせる。 | | | | |
| | | 予習・復習 | <p>食生活に関わる報道記事などは常に興味を持っておくこと。 予習事項 : 次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読み、興味のある箇所や授業で理解すべき点に下線を引いておくこと。 復習事項 : キーワードを中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。キーワード集を作成し、後日掲示した解答例により確認すること。小テスト後提出を求める。 予習復習時間は 180 分程度とする。</p> | | | | |
| テキスト | <p>カレント 公衆栄養学 由田克士・押野榮司 編著 建帛社 定価 2,600 円 (税別) 日本人の食事摂取基準 (2020年版) 第一出版 定価 2,700 円 (税別)</p> | | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①栄養疫学を理解している ②公衆栄養マネジメントを理解している ③公衆栄養プログラムを理解している <p>学習評価は、定期試験成績(70%)および単元ごとの小テスト(30%)によって行う。授業態度は、減点法により成績判定に加える。授業態度については授業の最初に説明する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|--|
| 1 回 | <p>オリエンテーション 授業の概要と評価法について</p> <p>第4章 栄養疫学</p> <p>①栄養疫学の概要</p> <p>本時の目標：公衆栄養活動の展開における栄養疫学の必要性と意義、基本的な考え方とその役割を理解する</p> <p>予習事項：テキスト4-1 (P87-89) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 2 回 | <p>第4章 栄養疫学</p> <p>②曝露情報としての食事摂取量</p> <p>本時の目標：疾病の曝露要因としての食事摂取量について説明できる</p> <p>予習事項：テキスト4-2 (P90-94) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 3 回 | <p>第4章 栄養疫学</p> <p>③食事摂取量の測定方法</p> <p>本時の目標：栄養調査における食事摂取量の測定方法について必要な知識を身に付ける</p> <p>予習事項：テキスト4-3 (P94-100) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 4 回 | <p>第4章 栄養疫学</p> <p>④-1 食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準）</p> <p>日本人の食事摂取基準（2020） I 総論（指標の概要と活用）</p> <p>本時の目標：栄養調査における食事摂取量の評価法について必要な知識を身に付ける</p> <p>予習事項：テキスト4-4 (P101-104) 日本人の食事摂取基準 I 総論 (P1-22) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 5 回 | <p>第4章 栄養疫学</p> <p>④-2 食事摂取量の評価方法</p> <p>日本人の食事摂取基準（2020） I 総論（活用に関する基本的事項）</p> <p>本時の目標：栄養調査における食事摂取量の評価法について必要な知識を身に付ける</p> <p>予習事項：テキスト4-4 (P105-107) 日本人の食事摂取基準 I 総論 (P23-44) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 6 回 | <p>第4章 栄養疫学</p> <p>④-3 食事摂取量の評価方法（データの処理と解析）</p> <p>本時の目標：地域の健康・栄養活動への栄養疫学の活用方法を学ぶ</p> <p>予習事項：テキスト4-4 (P107-112) 日本人の食事摂取基準 I 総論 (P23-44) を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |

| | |
|---------|--|
| 7 回 | <p>公衆栄養活動について（倉敷市の取り組み） 倉敷市食育推進計画・食育栄養まっりの準備 本時の目標：地域で行われている公衆栄養活動に参加するために、自分たちでミニミニ栄養教室を開く準備をすすめる 予習事項：担当ブースの資料作成のための準備をする 復習事項：担当ブースが円滑に運営できるか確認する</p> |
| 8 回 | <p>第5章 公衆栄養マネジメント ①②公衆栄養マネジメント・アセスメント 本時の目標：公衆栄養マネジメントの基本的な考え方やその必要性を学び、適切な展開ができるように公衆栄養アセスメントの目的や方法、理論モデルであるプリシード・プロシードモデルについて理解する 予習事項：テキスト5-1・2（P115-116-121）を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 9 回 | <p>第5章 公衆栄養マネジメント ③公衆栄養プログラムの目標設定 本時の目標：公衆栄養プログラムの目標設定の過程を理解し、目標が階層的に設定されていることを説明できる 予習事項：テキスト5-3（P121-125）を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 10 回 | <p>第5章 公衆栄養マネジメント ④公衆栄養プログラムの計画、実施（評価） 本時の目標：公衆栄養プログラムの計画・実施において対象者、地域、社会資源などの組織化、活用、連携などの重要性と方法について説明できる 予習事項：テキスト5-4（P126-132）を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 11 回 | <p>第5章 公衆栄養マネジメント ④公衆栄養プログラムの（計画、実施）評価 本時の目標：公衆栄養プログラムの実施中、実施後の評価方法について説明できる 予習事項：テキスト5-4（P132-136）を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 12 回 | <p>第6章 公衆栄養プログラムの展開 ①地域特性に応じたプログラムの展開 本時の目標：地域・職域における公衆栄養活動を実際に展開するうえでの考え方や背景について知識を養う 予習事項：テキスト6-1（P138-151）を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く 復習事項：キーワード集にまとめる</p> |

| | |
|---------|---|
| 13 回 | <p>第6章 公衆栄養プログラムの展開</p> <p>①地域特性に応じたプログラムの展開</p> <p>本時の目標：これまでに実施されてきた具体的な公衆栄養活動の事例をとおして地域特性を視野に入れたプログラムの展開について学ぶ</p> <p>予習事項：テキスト6-1 (P152-165)を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 14 回 | <p>第6章 公衆栄養プログラムの展開</p> <p>②食環境づくりのためのプログラムの展開</p> <p>本時の目標：これまでに実施されてきた具体的な公衆栄養活動の事例をとおして食環境づくりを視野に入れたプログラムの展開について学ぶ</p> <p>予習事項：テキスト6-2 (P166-184)を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる</p> |
| 15 回 | <p>第6章 公衆栄養プログラムの展開</p> <p>③地域集団の特性別プログラムの展開</p> <p>本時の目標：これまでに実施されてきた具体的な公衆栄養活動の事例をとおして集団特性を視野に入れたプログラムの展開について学ぶ</p> <p>予習事項：テキスト6-3 (P185-209)を読み、理解できなかったところ、興味を持ったところに下線を引く</p> <p>復習事項：キーワード集にまとめる予習事項 公衆栄養学のまとめ</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 公衆栄養学実習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 高槻 悦子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟研究室において授業時間以外に受け付ける | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標 : 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康の関りを明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す</p> <p>学生の学習成果 : 専門的学習成果—地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得 汎用的学習成果—栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技) 公衆栄養プログラムの模擬実習として、学生を対象とした身体状況調査、食事調査、食生活状況調査を行う。また、集団への食事調査として、調査対象者に興味関心が深まる食育SATシステムの有効な活用法についても実習を行う。 調査後のデータを処理し、得られた結果と既存資料を利用して、その集団の問題点を把握(アセスメント)し、対象集団への公衆栄養マネジメントとして健康教育の模擬授業を行う。 公衆栄養活動を模擬体験するとともに、学生自らの食生活改善を促すことも目的とする。 発表内容の整理や媒体の作成などを積極的に行うこと。</p> <p>予習・復習 公衆栄養活動に関連するキーワードについて、公衆栄養学(講義)と関連づけて予習・復習をすること。 発表内容の整理や媒体の作成など、予習・復習として積極的に行うこと。</p> <p>テキスト 公衆栄養学実習 第2版 上田信夫編 化学同人 定価2400円(税別) 日本人の食事摂取基準(2020年版) 第一出版 定価2,700円(税別) 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | <p>学習成果の評価としては、地域または、集団への公衆栄養マネジメントができることである。学習評価は、各回提出されたアセスメントのためのレポート(70%)と健康教育の模擬授業(30%)によって行う。特に模擬授業については、管理栄養士としてのマネジメント能力・事業遂行能力を総合評価する。また、他者を評価することにより公衆栄養活動を客観的に理解できたかも評価の対象とする。公衆栄養活動の実践には他職種との連携が必要となるのでグループ活動時の態度も評価する。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>毎回の実習ごとにレポートの提出をもとめる。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>オリエンテーション（実習の概要について）</p> <p>公衆栄養学の情報の検索方法 ① 情報の収集（新聞記事から） 公衆栄養アセスメントにおいては信頼性の高い情報を収集することが重要である。一般的な情報源として新聞から得た情報をもとに各自で整理し発表する。</p> |
| 2 回 | <p>公衆栄養学の情報の検索方法 ② 情報収集の結果 発表 ①調べてた内容を分かりやすく対象者に発表する (レポート提出)</p> <p>統計資料の検索と考察 社会のニーズの把握・健康栄養関連の的確な情報を得るために国が調査公表している統計資料を調べる (レポート提出)</p> |
| 3 回 | <p>公衆栄養活動の実践 地域での公衆栄養活動 （「倉敷市食育栄養まつり」の参加のための実践計画作成）</p> |
| 4 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ①－身体状況調査と評価（個人） 個人において栄養状態を評価することにより、健康状態を把握できる。栄養状態を評価するための身体計測の方法と判定・評価を身に付ける 学生同士による身体計測の実施と各自の栄養状態の評価を行う。 (レポート提出)</p> |
| 5 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ②－身体状況調査と評価（集団のデータ解析） ①の個々のデータを集計し、集団としての情報ととらえるためにデータ解析を行う (レポート提出)</p> |
| 6 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ③ 食事調査の実施－24時間思い出し法・食物摂取頻度調査・食育SATシステムによる 栄養素摂取量の推定と評価 短時間に簡便に行える食事調査を実際に行い、実施時の注意点を学ぶとともに、各自の栄養摂取状況を客観的に評価し、改善点とその改善方法を考え実行する (レポート提出)</p> |
| 7 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ④ 食事調査の実施－24時間思い出し法・食物摂取頻度調査・食育SATシステムによる 栄養素摂取量の推定と評価 短時間に簡便に行える食事調査を実際に行い、実施時の注意点を学ぶとともに、各自の栄養摂取状況を客観的に評価し、改善点とその改善方法を考え実行する (レポート提出)</p> |
| 8 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ⑤ 国民健康栄養調査の実施－食事記録法による 食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価 国民健康栄養調査の実施方法を知り、様式に沿った食事調査を実施する (国民健康栄養調査提出)</p> |

| | |
|---------|---|
| 9 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ⑥</p> <p>国民健康栄養調査の実施－食物摂取状況の把握のための聞き取り手法を学び、より正確な栄養素摂取量の算出、評価・現状把握（個人の評価）を行う（レポート提出）</p> |
| 10 回 | <p>栄養状態の判定と評価 ⑦</p> <p>国民健康栄養調査の実施－集団の栄養素摂取量の現状把握を行い、集団としての評価を行う（レポート提出）</p> |
| 11 回 | <p>公衆栄養活動の実践 ①</p> <p>プリシード・プロシードモデルによる公衆栄養マネジメント</p> <p>⑦により出された現状をプリシードの手法により要因分析を行い、改善のための公衆栄養活動のマネジメントを行う - 健康教育の目標設定と計画書の作成（計画書作成提出）</p> |
| 12 回 | <p>公衆栄養活動の実践 ②</p> <p>健康教育の計画書と媒体作成（指導案・媒体案）</p> <p style="text-align: right;">（レポート提出）</p> |
| 13 回 | <p>公衆栄養活動の実践 ③</p> <p>健康教育の計画書と媒体作成（細案・媒体）</p> |
| 14 回 | <p>公衆栄養活動の実践 ④</p> <p>健康教育の計画書と媒体作成</p> |
| 15 回 | <p>公衆栄養活動の実践 ⑤</p> <p>健康教育模擬授業とその評価－作成した媒体を効果的に使用しながら対象集団に行動変容が期待できるよう健康教育を行う。対象者として客観的にその健康教育について評価する</p> <p style="text-align: right;">（自己評価・他者評価・指導媒体提出）</p> |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | |
|---|---|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理論 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)： y_sato@owc.ac.jp ：在室時は何時でも可 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</p> <p>給食経営管理 I では、学校・病院・福祉施設などの特定給食施設における利用者の身体状況や栄養状態、その他の利用目的にあわせた給食サービスの方法について「栄養・食事管理」と「経営管理」を学習し、給食経営管理業務に必要な基礎知識を習得する。また、各項目の目的や意義を理解し給食経営管理の流れを理解する。</p> <p><学生の学習成果></p> <p>給食経営管理業務の基本となる専門知識を習得する。給食管理には、コミュニケーションによる良好な人間関係を築くことが重要であることを理解する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。 ・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 予習・復習 | <p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分)</p> <p>復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> <p>「小テスト」および「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>管理栄養士テキストブック 給食経営管理論 片山直美・原正美 (株) 未来</p> | | | | | |
| 注意事項 | <p>15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。予習・復習を行うこと。</p> | | | | | | |

| | 授 業 回 数 別 教 育 内 容 |
|---------|---|
| 1 回 | オリエンテーション（シャトルカードの記入方法） 給食の概念 P14～30 1）給食の概要 2）給食システム 3）給食施設の特徴と関連法規 給食経営管理の概念内容予告 |
| 2 回 | 給食の経営管理の概念（小テストによる復習①） P31～52 1）給食経営と献立 2）経営管理の概要 3）給食とマーケティング 4）給食経営と組織 栄養・食事管理内容予告 |
| 3 回 | 栄養・食事管理（小テストによる復習②） P54～81 1）栄養・食事のアセスメント 2）食事の計画(栄養目標量の設定) 3）食事計画の実施、評価、改善 給食経営における品質管理内容予告 |
| 4 回 | 給食経営における品質管理（小テストによる復習③） P82～99 1）品質と標準化 2）原価 食材・生産調理内容予告 |
| 5 回 | 給食経営における品質管理（小テストによる復習④） P100～125 3）食材 4）生産(調理)と提供 給食の安全・衛生内容予告 |
| 6 回 | 給食の安全・衛生（小テストによる復習⑤） P126～144 1）安全・衛生の概要 2）安全・衛生の実際(大量調理施設衛生管理マニュアル) 給食の施設・設備内容予告 |
| 7 回 | 給食の施設・設備（小テストによる復習⑥） P160～183 1）生産(調理)設計・設備設計 2）食事環境の設計と設備 給食の人事管理内容予告 |
| 8 回 | 給食の人事管理（小テストによる復習⑦） P184～193, 1）人事 2）給食業務従事者の教育・訓練 3）人事考課 給食の安全・衛生 P145～159 4）事故・災害対策 医療施設内容予告 |
| 9 回 | 医療施設（小テストによる復習⑧） P194～202 1）給食の目的 4）栄養・食事管理の特徴 2）施設の種類 5）生産管理の特徴 3）経営管理の特徴 6）安全・衛生管理の特徴 7）施設・設備管理の特徴 高齢者・介護福祉施設内容予告 |
| 10 回 | 高齢者・介護福祉施設（小テストによる復習⑨） P203～214 1）給食の目的 4）栄養・食事管理の特徴 |

| | |
|---------|---|
| | <p>2) 施設の分類 5) 生産管理の特徴</p> <p>3) 経営管理の特徴 6) 安全・衛生管理の特徴 7) 施設・設備管理の特徴</p> <p>児童福祉施設・障害者福祉施設内容予告</p> |
| 11 回 | <p>児童福祉施設（小テストによる復習⑩） P215～230</p> <p>1) 給食の目的 4) 栄養・食事管理の特徴</p> <p>2) 施設の分類 5) 生産管理の特徴</p> <p>3) 経営管理の特徴 6) 安全・衛生管理の特徴 7) 施設・設備管理の特徴</p> <p>障害者福祉施設</p> <p>1) 給食の目的 4) 栄養・食事管理の特徴</p> <p>2) 施設の分類 5) 生産管理の特徴</p> <p>3) 経営管理の特徴 6) 安全・衛生管理の特徴 7) 施設・設備管理の特徴</p> <p>学校内容予告</p> |
| 12 回 | <p>学校（小テストによる復習⑪） P231～242</p> <p>1) 学校給食の目的類 4) 栄養・食事管理の特徴</p> <p>2) 学校給食の運営形態による分類 5) 安全・衛生管理の特徴</p> <p>3) 経営管理の特徴 6) 施設・設備管理の特徴</p> <p>事業所・その他給食施設内容予告</p> |
| 13 回 | <p>事業所（小テストによる復習⑫） P243～258</p> <p>1) 施設・設備の基準と関係法規</p> <p>2) 食事環境の設計と設備</p> <p>その他給食施設</p> <p>給食サービス事業所内容予告</p> |
| 14 回 | <p>給食サービス事業所（小テストによる復習⑬） P259～272</p> <p>1) 給食運営の委託事業</p> <p>2) 院外給食</p> <p>3) 配食事業</p> <p>4) 大量調理施設衛生管理マニュアルについて</p> |
| 15 回 | <p>まとめ（小テストによる復習⑭）</p> <p>全体のまとめ</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理論Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標：>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理論Ⅰで習得した基礎知識を基に、各種給食施設の運営形態を理解し経営管理の実際を学ぶ。関連の資源（食品流通、給食に関わる組織や経費など）の総合的な判断力、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を養う。</p> <p><学生の学習成果> 給食経営管理業務の総合的能力を養う。特定給食施設での栄養・給食関連サービスのマネジメントや良好な経営管理継続のための応用力や実践的な総合能力を養う。</p> | | | | | | |
| 教育方法 | 授業の進め方 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。 ・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。 <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。 | | | | | |
| | 予習・復習 | <p>予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分) 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分) 「小テスト」および「課題」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>給食経営管理論 片山直美・原正美 編 (株)みらい Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 西川貴子、深津智恵美ら 医歯薬出版株式会社</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>小テスト7回 (7点:1点/回) レポート8回 (8点:1点/回) 定期試験 (85点) 加点合計 100点</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>15回授業の2/3以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。</p> | | | | | | |

| | |
|---------|---|
| 10 回 | 給食における栄養管理の実際④（レポート・小テストによる復習） P45～50（経営管理実習の手引き） 1）食品流通 食材の購入方法 2）在庫管理と発注 給食の品質管理の実際の内容について予告 |
| 11 回 | 給食の品質管理の実際（レポート・小テストによる復習） P82～96（給食経営管理論） 1）栄養・食事管理と総合品質 2）栄養出納表の算出 3）品質改善とPDCAサイクル 原価管理の実際の内容について予告 |
| 12 回 | 原価管理の実際（レポート・小テストによる復習） P145～148（経営管理実習の手引き） 1）原価計算 2）ABC分析 会計・原価管理の実際の内容について予告 |
| 13 回 | 原価管理の実際（レポート・小テストによる復習） P149～151（経営管理実習の手引き） 1）給食における収入と原価・売上 2）損益分岐点作成 衛生管理の実際の内容について予告 |
| 14 回 | 衛生管理の実際（小テストによる復習） P126～143（給食経営管理論） 1）大量調理マニュアル 2）衛生管理の実際の流れ 給食の生産管理の実際の内容について予告 |
| 15 回 | 給食の生産管理の実際（レポート・小テストによる復習） P160～182（給食経営管理論） 1）生産ラインと作業動線 2）施設・設備のレイアウト 3）新調理システム 4）労働生産性 5）作業工程の分析、工程表の作成 |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|--|---|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理実習 I | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)： y_sato@owc.ac.jp ：在室時は何時でも可 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理論での学びが実践の場で生かせるよう、対象者に見合った食事計画や献立、作業計画を作成し、発注・調理・試食を行い、大量調理を想定した大型機器を使用し調理方法の習得や衛生管理の実際を体験する。また、給食を活用した栄養教育・情報提供を行う。給食経営の関わりは対象者の目的に合った、おいしく安全な食事提供ができたか、作業の時間配分や衛生面で問題はなかったかなど、業務全体のマネジメントの評価が行え、栄養士と調理従事者の業務内容や役割を理解し、協力体制の重要性を学び、問題点を見つける目やその改善策を考える力を身につける。</p> <p><学生の学習成果> 衛生管理の方法を理解する。大量調理技術、新調理技術の習得。給食業務のマネジメントの流れを習得する。給食経営管理業務に必要な応用力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、自己管理能力を身につける。給食業務に必要な数量的スキルを獲得する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者に見合った献立を SAT システムを活用しながら作成する。 大量調理や衛生管理技術の実習は7グループ(管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係)に分けて7回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。 給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。 <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。 | | | | | |
| 成績評価の方法 | 予習・復習 | <p>毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。 予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分) 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> | | | | | |
| | テキスト | <p>西川貴子、深津智恵美ら Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第4版：医歯薬出版株式会社 メニューコーディネイターのための食材別料理集第三版：同文書院 NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィック</p> | | | | | |
| 注意事項 | <p>衛生管理 (15点：5点/回) (衛生的な服装・検便・手洗い) 課題レポート7回 (35点：5点/回) (献立、調理衛生、指導案、大量調理、発注書、給食日誌、実習改善案) 実習内容 (50点) 検収作業・衛生的作業 (10点：5点/各) 調理技術 (20点) グループ作業 (20点：リーダーシップ、チームワーク)</p> <p>加点合計 100点 実習ファイル未提出 10点減点とする。期限より遅れた場合は5点減点とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>多人数での実習で作業が分担されることもあるが、各自がそれぞれの役割を担い、責任を持って遂行すること。また、互いが協力し、チームワークを意識し、常に「報告」「連絡」「相談」の原則を忘れないようにすること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は連絡をすること。休むと役割が理解できなくなるので体調を整え遅刻や欠席がないようにする。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | オリエンテーション 実習のグループ編成、 学校給食の栄養・食事計画を立て、実習テーマを決定する |
| 2 回 | 栄養・食事計画に基づいた献立作成 SAT システムを活用し献立作成を行う (献立表の提出) |
| 3 回 | 給食施設見学 給食を活用した指導案の作成、 (指導案提出) |
| 4 回 | 衛生管理 衛生帳票の記入方法 手洗いチェック (3段階で評価) |
| 5 回 | 大量調理について 器具の使用法、下処理方法、調理方法、盛り付け方法について 給食帳票の記入方法 野菜カットテスト |
| 6 回 | 課題実習打合せ 献立、調理、作業工程表説明、食器衛生検査説明 (次回実習のための予習を必ず行う) |
| 7 回 | 予備実習 (管理栄養士役は給食日誌作成) ・ グループに分かれて、実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、 洗浄パート役・衛生係) ・ 学校給食実習の準備 |
| 8 回 | 課題献立①：真空調理の実習 (管理栄養士役は給食日誌提出) ・ 真空調理の 仕込み 実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、 洗浄パート役・衛生係) ・ 学校給食実習の準備 |
| 9 回 | 課題献立① (魚)：真空調理の実習 (管理栄養士役は給食日誌提出) ・ 真空調理の 再加熱 実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、 洗浄パート役・衛生係) ・ 学校給食実習の準備 |
| 10 回 | ・ 課題献立② (肉)：真空調理の実習 (管理栄養士役は給食日誌提出) ・ 真空調理の 仕込み 実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、 洗浄パート役・衛生係) ・ 学校給食実習の準備 |

| | |
|---------|---|
| 11 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題献立②（肉）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） <ul style="list-style-type: none"> ・ 真空調理の「再加熱」実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 学校給食実習の準備 <p>（課題実習終了後大量調理、真空調理のレポート提出）</p> |
| 12 回 | <p>グループ実習「学校給食」準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業工程表、作業動線、献立指示書作成 ・ 発注書、作業工程表の作成 ・ 作業計画のプレゼンテーション ・ 作業グループでの打合せ <p>（発注書、作業工程提出）</p> |
| 13 回 | <p>グループ A 班献立の実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 給食時指導の媒体作成 |
| 14 回 | <p>グループ B 班献立の実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 給食時指導の媒体作成 |
| 15 回 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食の給食時の指導を行う。 ・ 給食の原価計算 ・ 学校給食実習についてグループでまとめ、学校給食実習の評価、改善点についてプレゼンテーションを行う。 <p>（実習評価・改善表提出）</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--|----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理実習Ⅱ | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 病院、福祉施設、事業所などでの給食業務を想定して栄養・食事管理およびマーケティングの視点に立った経営管理を実習する。 給食施設の種類によるニーズや提供方法の違いを理解し実践することで、様々な給食施設でのマネジメント能力を養い、応用力や判断力を習得する。施設ごとの給食を活用した栄養教育、情報提供方法を学習する。</p> <p><学生の学習成果> 個別対応を含む大量調理技術の習得。嚥下調整食の習得。病院、福祉施設、事業所のマネジメント能力を養う。給食経営管理におけるマーケティングの基本を理解する。給食経営管理業務に必要な自己管理能力、応用力、課題解決能力を身につける。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院、福祉施設、事業所での給食業務を実習する。 ・各施設の違いや特色を取り入れた献立をSATシステムを活用しながら作成する。 ・大量調理や衛生管理技術の実習は7グループ(管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係)に分けて7回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。 ・給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。 <p>(課題に対するフィードバックの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。 | | | | | |
| 予習・復習 | <p>毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。 予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分) 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> | | | | | | |
| | テキスト | <p>西川貴子、深津智恵美ら Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第4版・医歯薬出版株式会社 メニューコーディネイターのための食材別料理集第三版：同文書院 NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィック</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>衛生管理 (10点：5点/回) (衛生的な服装・検便) 課題レポート8回 (40点：5点/回) (給与栄養目標量計算表、献立作成、病院給食、高齢者福祉施設、事業所、給食日誌、ヘルシー弁当宣伝媒体案、実習まとめ改善シート)</p> <p>実習内容 (50点) 検収作業・衛生的作業 (10点：5点/各) 調理技術 (20点) グループ作業 (20点：リーダーシップ、チームワーク)</p> <p>加点合計100点 実習ファイル未提出10点減点とする。期限より遅れた場合は5点減点とする。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>多人数での実習で、作業が分担されることもあるが、各自がそれぞれの役割を担い、責任を持って遂行すること。また、互いが協力し、チームワークを意識し、常に「報告」「連絡」「相談」の原則を忘れないようにすること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は連絡をすること。休むと役割が理解できなくなるので体調を整え遅刻や欠席がないようにする。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 1 回 | <p>オリエンテーション</p> <p>グループ実習（病院、福祉施設、事業所）の栄養・食事計画の作成</p> <p>各施設の給与栄養目標量算出</p> <p>栄養・食事計画に基づいた献立作成</p> <p>SAT システムを活用し献立作成を行う （給与栄養目標量算出表提出）</p> |
| 2 回 | <p>グループ実習（各施設）の献立作成</p> <p>課題実習の説明、打ち合わせ （献立表提出）</p> |
| 3 回 | <p>課題（嚥下調整食 1）実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 施設実習の準備 |
| 4 回 | <p>課題（嚥下調整食 2）実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 施設実習の準備 |
| 5 回 | <p>課題（嚥下調整食 3）実習（管理栄養士役は給食日誌提出） （摂食嚥下困難食レポート提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を役割に分かれて行う （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ 施設実習の準備 |
| 6 回 | <p>グループ実習「各施設給食」準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業工程表、作業動線、献立指示書作成 ・ 発注書、作業工程表の作成 ・ 作業計画のプレゼンテーション ・ 作業グループでの打合せ |
| 7 回 | <p>ヘルシー弁当のテーマ決定</p> <p>SAT システムを活用し献立作成を行う</p> |
| 8 回 | <p>① 病院給食実習（治療食・食事形態）（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ ヘルシーメニューの準備 （病院給食レポート提出） |
| 9 回 | <p>② 高齢者福祉施設給食実習（管理栄養士役は給食日誌提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉施設給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係） ・ ヘルシーメニューの準備 （高齢者福祉施設給食レポート提出） |

| | |
|---------|--|
| 10 回 | <p>③ 事業所給食実習 (管理栄養士役は給食日誌提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業所給食実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係) ヘルシーメニューの準備 (事業所給食レポート提出) |
| 11 回 | <p>各施設給食実習のまとめ ヘルシー弁当選考会準備</p> |
| 12 回 | <p>ヘルシー弁当選考会 (各グループ 20 分ずつプレゼン⇒弁当決定)、材料発注、食券販売計画打ち合わせ 野菜カッティングテスト</p> |
| 13 回 | <p>ヘルシー弁当の実習準備 弁当の販売促進用媒体を作成する。 実習作業計画のプレゼンテーション 作業グループでの打ち合わせ (宣伝媒体提出)</p> |
| 14 回 | <p>ヘルシー弁当実習 (管理栄養士役は給食日誌提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習を役割に分かれて行う。 (管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗淨パート役・衛生係) |
| 15 回 | <p>実習の評価、反省会ヘルシー弁当のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルシー弁当実習についてグループでまとめる 実習の評価、改善点についてプレゼンテーション。 <p>実習室の清掃 (実習評価・改善表提出)</p> |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--|----|-----|---|------|-------|-----------|-------|---------|-------|-----------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|--|
| 科目名 | 給食経営管理実習事前事後 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 | | | | | | | | | | | | |
| 質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨地実習（臨床栄養・公衆栄養・給食栄養管理Ⅰ・Ⅱ）の準備段階として、実践活動の場での「課題発見や問題解決」に必要な専門知識と技術の習得を行うとともに、実習を円滑に進めるための基本マナーを指導する。 実習後は、各臨地実習で学んだ管理栄養士の実践業務を再復習し、「専門的知識と技術」を統合させ、マネジメント能力の高い管理栄養士の育成を目指す。</p> <p><学生の学習成果> 各臨地実習の実践業務での課題を見つけ、課題研究を行い結果がまとめられ、発表することができる。社会人としての自己管理能力を身につけ実習に臨むことができる。実習に必要な知識をまとめ、積極的な態度で実習に臨むことができる。 （課題に対するフィードバックの方法） ・課題は提出後、添削し返却する。全体又は必要に応じて個人指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前指導では、臨地実習に関わる知識の復習と実践現場を想定した技術の演習を中心に行う。 社会人、医療人としての資質、感性を身につける。 事後指導では、臨地実習で取り組んだ課題や習得した知識・技術をまとめ、実践業務の気づきや問題点、反省点などをプレゼンテーションする。 管理栄養士として今後期待される点や取り組んでいかなければならない課題を明らかにし、管理栄養士の資質向上へ向けた指導を行う。 <p>予習・復習 毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。 予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。(90分) 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。(90分)</p> <p>テキスト 松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社(2007)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>給食経営管理実習事前事後評価</p> <table border="0"> <tr> <td>事前の課題研究内容</td> <td>(10点)</td> </tr> <tr> <td>事前の準備事項</td> <td>(30点)</td> </tr> <tr> <td>実習事項確認テスト</td> <td>(20点)</td> </tr> <tr> <td>事後の課題研究のまとめ</td> <td>(10点)</td> </tr> <tr> <td>事後の課題発表能力</td> <td>(30点)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">加点合計 100点</td> </tr> </table> <p>臨地実習の参加に関しては事前の準備、事後のまとめが重要であるため提出物の期限を厳守すること。</p> | | | | | | | 事前の課題研究内容 | (10点) | 事前の準備事項 | (30点) | 実習事項確認テスト | (20点) | 事後の課題研究のまとめ | (10点) | 事後の課題発表能力 | (30点) | 加点合計 100点 | |
| 事前の課題研究内容 | (10点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事前の準備事項 | (30点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実習事項確認テスト | (20点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事後の課題研究のまとめ | (10点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事後の課題発表能力 | (30点) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 加点合計 100点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 注意事項 | 参考図書等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | | |
|-------------------|---------|---|
| 事前教育 二年後期 | 1 回 | オリエンテーション 1. 臨地実習の目的と意義 2. 実習先施設について 学校、高齢者福祉施設、保健所、病院実習の概要説明 3. 個人調査 |
| | 2 回 | 4. 臨地実習施設の実習内容とスケジュール ・ 実習に必要な知識と技術 ・ 実習中の服装、持参品、費用について 5. 実習中のマナー、良好な人間関係を築くための必要事項 |
| | 3 回 | 6. 実習に必要な実践的な知識と技術 ・ 栄養管理、給食管理、衛生管理について 7. 臨地実習での研究課題について |
| | 4 回 | 8. 学校における管理栄養士の業務と課題 |
| | 5 回 | 9. 福祉施設における管理栄養士の業務 |
| | 6 回 | 10. 実習先管理栄養士による臨地実習の内容について講義（高齢者施設） ・ レポート作成 ・ 研究課題をまとめる |
| | 7 回 | 11. 実習先管理栄養士による臨地実習の内容について講義（病院） ・ レポート作成 ・ 研究課題をまとめる |
| | 8 回 | 12. 実習施設の説明、実習の心得 ・ 研究課題の完成、目標の設定を明確化 |
| 事前教育 三年前期 | 9 回 | 13. 実習施設との打ち合わせ・訪問について ・ 電話の対応、挨拶などのマナー ・ 打ち合わせ準備、レポートなど説明文書について |
| | 10 回 | 14. 大量調理の知識と技術 ・ 栄養管理の実際 ・ 大量調理マニュアル ・ 衛生について ・ 給食帳票類について |
| | 11 回 | 15. 実習記録ノート書き方 16. 実習準備確認テストと解説 |

| | | |
|--------------|---------|---|
| | 12 回 | 17. 実習中のマナー、注意事項、最終確認事項 18. 課題研究のまとめ方 19. お礼状の書き方 |
| 事後教育 三年前期 | 13 回 | 1. 臨地実習のまとめ 2. 臨地実習報告会の準備 |
| | 14 回 | 3. 臨地実習報告会の準備 |
| | 15 回 | 4. 臨地実習報告会の準備 |
| | | 臨地実習報告会 ・ 施設別に実習の反省、感想を発表する 施設別の実習課題への取り組みの報告と討論 <インターンシップ> 希望学生に対して、実習施設別事後研修の施設選定、研修内容などの助言を行う。 |
| | | |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|-----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理臨地実習Ⅰ | 授業回数 | 1週間 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間に対応 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理臨地実習Ⅰは、給食の運営を含む実習内容とし、学校給食施設又は事業所等の集団給食施設で行う。各施設における給食の役割を理解し、給食サービス提供に関し必要な、給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳、衛生管理などの知識及び技能を習得する。 また、学校では児童・生徒に対する適切な栄養教育を行うための知識と技術を習得する。</p> <p><学生の学習成果> 各施設における給食業務の内容を理解し、職務の遂行技術を習得する。 給食の目的・役割を理解し実践的な能力を身につける。社会人としての責任的倫理観、自己管理能力を獲得する。管理栄養士として必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。 施設でのコミュニケーション、チームワーク能力を身につける</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技) 学校給食施設または高齢者福祉施設において3年次前期に1週間の臨地実習を行う。 研究課題を決め実習の目標とする。 実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。</p> <p>予習・復習</p> <p>臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。 予習・復習を行い、まとめておくこと。</p> <p>テキスト</p> <p>松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>実習先の評価 (50点) 課題研究 (30点) 実習ノート (20点) 加点合計 100点</p> <p>社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | 参考図書等 | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 実 習 前 | 実習先事前訪問 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 研究課題の設定・指導 |
| 1 日 目 | 管理者・関係者への挨拶 施設の概要と特徴説明 給食業務の概要説明 食教育の概要又は高齢者の食事形態の概要について |
| 2 日 目 | 給食管理システムについて 給食実施計画とその実際 実習の研究課題 |
| 3 日 目 | 給食管理・運営の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大量調理作業分析 ・ 衛生管理の実際 ・ 食育活動の実際・高齢者の食事の実際 |
| 4 日 目 | 給食管理・運営の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養士業務の分析 ・ 食育活動の実際・高齢者の食事の実際 |
| 5 日 目 | 研究課題の整理・実習施設での反省会 |
| 6 日 目 | 大学での実習補講 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設の実習項目の確認 ・ 課題レポート作成 ・ 実習グループでのまとめと反省点 |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|-----------------------------|--|---|-----|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 給食経営管理臨地実習Ⅱ | 授業回数 | 1週間 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 佐藤 幸枝 |
| 質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応 | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 高年齢福祉施設での実習では、対象者のアセスメントに基づいた的確な食事提供や給食運営方法、経営管理全般の業務を身に付け、実践現場で速やかな状況判断や業務全般のマネジメント能力を向上させる。また、給食に携わるスタッフとの連携方法や入所者への対応など、マニュアルでは理解しにくい、ソフト面の技術を学ぶ。 栄養ケア・マネジメントの知識と技術を習得する。</p> <p><学生の学習成果> 福祉・介護システムの中で栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる実践的な能力を獲得する。栄養ケア・マネジメントの知識と技術を習得する。入所者、他職種との連携に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。マネジメントに必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>授業の進め方 (講義・演習・実験・実習・実技) 高年齢福祉施設で、3年次前期に1週間の実習を行う。 研究課題を決め実習の目標とする。 実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。</p> <p>予習・復習 臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。 予習・復習をしっかりとめておくこと。</p> <p>テキスト 松崎政三ら編著 臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営] 建帛社(2007)</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>実習先の評価(50点) 課題研究(30点) 実習ノート(20点) 加点合計100点</p> <p>社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。</p> | | | | | | |
| 注意事項 | <p>参考図書等 実習中の衛生管理、接遇に気をつけること。 臨地実習先の担当管理栄養士の指示に従い、積極的に実習に取り組むこと。</p> | | | | | | |

| 授 業 回 数 別 教 育 内 容 | |
|-------------------|---|
| 実 習 前 | 実習先事前訪問 オリエンテーション 研究課題の設定・事前指導 |
| 1 日 目 | 実習オリエンテーション 施設職員への挨拶 施設の概要説明・見学 栄養部門業務の概要説明 |
| 2 日 目 | 経営管理システムの分析 入所者の食事管理・入所者とのコミュニケーション 研究課題活動① |
| 3 日 目 | 衛生管理の実際、衛生教育 栄養ケア・マネジメントの実際 研究課題活動② |
| 4 日 目 | 高齢者福祉施設調理作業の実際 栄養ケア・マネジメントの実際 研究課題活動③ |
| 5 日 目 | 研究課題の整理・実習施設での反省会 |
| 6 日 目 | 大学での実習補講 高齢者福祉施設での給食経営管理項目の確認 実習報告会の打ち合わせ 課題レポートについて |

| 令和4年度教育計画 | | | | | | | |
|---|---|---|---|-----|---|------|-------|
| 科目名 | 公衆栄養臨地実習 | 授業回数 | 7 | 単位数 | 1 | 担当教員 | 高槻 悦子 |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : C棟研究室において授業時間外に受け付ける | | | | | | | |
| 教育目標と学生の学習成果 | <p>教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保健所および市町村保健センター等の果たす役割や業務を理解し、地域での公衆栄養活動を体験することによって、地域等における栄養関連サービスに関する実践力を身に付ける。</p> <p>学生の学習成果： 学内で習得した公衆栄養活動の知識・技術を実践の場に適用し、理論と実践を結びつけて理解することが出来るようになる。また、保健所および市町村等の役割や業務を理解できるようになる。</p> | | | | | | |
| | 教育方法 | <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>岡山県内の保健所または市町村保健センターなどにおいて1週間の臨地実習を行う。研究課題を決め、実習の目的とすること。実習終了後は、研究課題をまとめ、レポートとして各自実習施設に提出する。学内においては、全員で反省会を開催し、他の実習施設での実習参加者の報告も踏まえ各自レポートを提出する。</p> | | | | | |
| 学習評価の方法 | 予習・復習 | 実習先市町村の現状、特に栄養・健康課題やそれに対する施策について調べる。実習先から指示された課題(健康教育等)は積極的に準備すること。 | | | | | |
| | テキスト | 岡山県保健福祉部健康対策課監修 実習テキスト 岡山学院大学「管理栄養士のための臨地実習ノート」 | | | | | |
| 注意事項 | 公衆栄養臨地実習受講準備のための事前補習を必ず受講すること。 事前補習による課題、提出物も評価対象とする。 | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|------------------|--|
| 学 内 | オリエンテーション 実習にあたっての事前説明および実習先の把握 |
| 第 1 日 目 | 保健所・市町村保健センター等の概要と業務について（講義） |
| 第 2 日 目 | 地域保健対策関係課の業務について（講義） 行政栄養士の業務について（講義） |
| 第 3 日 目 | 地域保健栄養活動の実際① （地域保健の現状とその対策） |
| 第 4 日 目 | 地域保健栄養活動の実際② （地区組織の育成 他） |
| 第 5 日 目 | 地域保健栄養活動の実際③ （母子保健事業 他） |
| 第 6 日 目 | 学内での臨地実習報告会 |

| 令和 4 年 度 教 育 計 画 | | | | | | | | | | |
|---|--|----------------------------|--|-----|---|------|------|---------------------------------|--|--|
| 科目名 | 臨床栄養臨地実習 | 授業回数 | 15 | 単位数 | 2 | 担当教員 | 平野 聡 | | | |
| 質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : A 棟 206 研究室 水曜日 13 時から 14 時 30 分 hirano@owc.ac.jp | | | | | | | | | | |
| 教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果 | <p><教育目標>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨床栄養学および臨床栄養学実習・演習を履修した後、病院の現場において個々の患者に対して栄養評価・判定に基づく適切な栄養ケア・プロセスを行う。また、チーム医療を理解するために、現場の医療関係者との合同カンファレンスに参加してその重要性を学ぶことを目的とする。</p> <p><学生の学習成果> 専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・プロセスができる知識及び技術が実践できていること。 汎用的学習成果は、チーム医療の場で社会人としての倫理観が獲得できること。課題発見とその解決ができる課題解決能力が獲得できること。</p> | | | | | | | | | |
| | 教 育 方 法 | 授 業 の 進 め 方 | <p>(講義 ・ 演習 ・ 実験 ・ 実習 ・ 実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院実習を 3 年生後期に 2 週間行う。実習時間は 1 日 9 時間とする。 2. 3 年生前期に補習を実施し、研究課題の作成及び臨地実習の準備を行う。 3. 後期オリエンテーション時に研究課題の最終確認及び各病院の挨拶状況を確認する。 4. 研究課題をまとめ、報告会ではパワーポイントで発表する。 <p>なお、学習のフィードバックは、課題の提出に対し、解説を行う。</p> | | | | | 予 習 ・ 復 習 | <p>【予習】：これまでの臨床栄養学・給食経営管理論の授業を復習し、参加する。 臨地実習先の医療機関のホームページを確認する。</p> <p>【復習】：臨地実習期間は、臨地実習で指導を受けた内容は、実習ノートを確認後、振り返る。</p> | |
| | 学 習 評 価 の 方 法 | テ キ ス ト | <p>本学作成の「臨床栄養学臨地実習ノート」 佐藤和人編著 エssenシャル「臨床栄養学 第 9 版」医歯薬出版</p> | | | | | 学 習 評 価 の 方 法 | <p>学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・プロセスができる知識及び技術が実践できている。 ○汎用的学習成果は、チーム医療の場で社会人としての態度が取れていること。課題発見とその解決ができる能力が身に付く。栄養ケア・プロセスの実践の補習への参加と事前事後の準備を行っている。 ○学習評価は、実習先評価 (30 点)、実習ノート (10 点)、研究課題レポート (10 点)、研究課題の発表 (20 点)、事前事後課題 (30 点) を総合して行う。 ○なお、臨地実習が規定の日数をおこなえない場合や実習先評価が著しく低い場合は、その他の学習評価が規定の得点を満たした場合でも、単位の認定はおこなえない。 | |
| 注 意 事 項 | <p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業回数別内容は臨地実習先及び病院が指定する休日により変更となる可能性があるため対応する。 ・ これまでの授業内容について科目を問わず復習する。 ・ 解剖生理学と病理学のテキストは読み返す。 | | | | | | | | | |

授 業 回 数 別 教 育 内 容

| | |
|--------|--|
| 1 回 | <p>事前実習（学内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習概要・実習目標・注意事項などを説明する。 ・研究課題について説明する。 |
| 2 回 | <p>臨地実習 1日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 3 回 | <p>臨地実習 2日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 4 回 | <p>臨地実習 3日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 5 回 | <p>臨地実習 4日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 6 回 | <p>臨地実習 5日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 7 回 | <p>学内にて臨地実習 6日目・・・全員登校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートの確認（ノート持参） ・研究課題の進捗状況の報告および質疑応答 ・1週間の反省を病院別にまとめ発表する |
| 8 回 | <p>臨地実習 7日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |
| 9 回 | <p>臨地実習 8日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う</p> |

| | |
|---------|---|
| 10 回 | 臨地実習 9日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う |
| 11 回 | 臨地実習 10日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う |
| 12 回 | 臨地実習 11日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う |
| 13 回 | 学内にて事後実習 12日目・・・全員登校 <ul style="list-style-type: none"> ・実習ノート及び研究課題のまとめ（提出） ・礼状の書き方 ・報告会の役割分担を決める ○持参物：便箋と白の封筒 |
| 14 回 | 学内にて事後実習 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養臨地実習の報告会の準備 レポートの完成・パワーポイントの完成 |
| 15 回 | 学内にて事後実習 <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題の報告会 |